

建具表

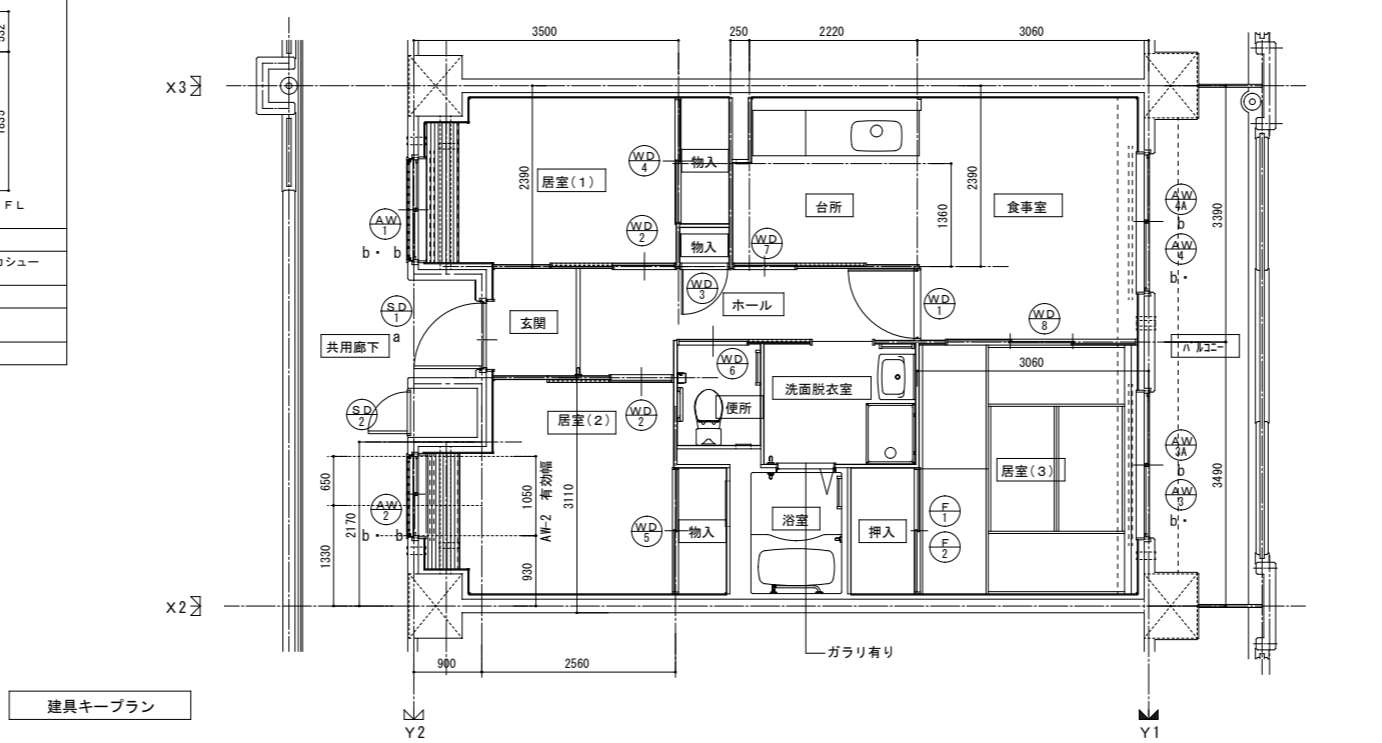
符号・形式	(S.D.1) スチール製片開き両面フラッシュドア	(S.D.2) スチール製片開き片面フラッシュドア	(AW.1) アルミ製引違いサッシ	(AW.2) アルミ製引違いサッシ	(AW.3) アルミ製引違いサッシ	(AW.3A) アルミ製引違いサッシ	(AW.4) アルミ製引違いサッシ	(AW.4A) アルミ製引違いサッシ
性能	特定防火設備		防火設備	防火設備	防火設備	防火設備	防火設備	防火設備
寸法	数量 850×1,900	数量 550×1,800	数量 1,320×950	数量 1,050×950	数量 1,900×1,800	数量 1,900×1,800	数量 1,900×1,800	数量 1,800×1,800
使用箇所	玄関	PS・MB	居室(1)	居室(2)	居室(3)	居室(3)(1階)	居室(3)(1階)	台所・食居室
図面								
枠・見込	枠: 80 扉: 36	枠: 42 扉: 35	枠: 70	枠: 70	枠: 70	枠: 70	枠: 70	枠: 70
仕上	溶融亜鉛メッキ鋼板 (両面t=0.5以上) SOP (特共)	溶融亜鉛メッキ鋼板 SOP	アルマイト (シルバー) の上、クリアー塗装	アルマイト (シルバー) の上、クリアー塗装	アルマイト (シルバー) の上、クリアー塗装	アルマイト (シルバー) の上、クリアー塗装	アルマイト (シルバー) の上、クリアー塗装	アルマイト (シルバー) の上、クリアー塗装
ガラス			網入り型板ガラス t=6.8	網入り型板ガラス t=6.8	網入り型板ガラス t=6.0	網入り型板ガラス t=6.0	網入り型板ガラス t=6.0	網入り型板ガラス t=6.0
金物	下蓋、シリコンダブ (割ビッキング性能5分以上)、気密用ガスケット、ドアガード、受箱、ドアアイ、アングルピース、レバーハンドル、ステンレス執指、戸当り、ドアクローザー (既-型)	ステンレス丁番、ケースハンドル、おとり止めチェーン付高金物一式	ロック付クレセント、アングルピース、二重水切	ロック付クレセント、アングルピース、二重水切	ロック付クレセント×2、振込引手、アングルピース	ロック付クレセント×2、振込引手、アングルピース	ロック付クレセント×2、振込引手、アングルピース	ロック付クレセント×2、振込引手、アングルピース
備考	錠前: 防犯建物部品対応、受け口 W250以上	前方縁気	RL-B型 サッシに準ずる。アルミ面格子	RL-B型 サッシに準ずる。アルミ面格子	RL-B型 サッシに準ずる。	防犯建物部品対応 RL-B型 サッシに準ずる。	RL-B型 サッシに準ずる。	防犯建物部品対応 RL-B型 サッシに準ずる。
符号・形式	(WD.1) 片開き入りフラッシュ戸	(WD.2) 片引き軽量戸	(WD.3) 片開き軽量戸	(WD.4) 引違い軽量戸	(WD.5) 引違い軽量戸	(WD.6) 片引き入りフラッシュ戸	(WD.7) 片引きフラッシュ戸	(WD.8) 3本引違い軽量戸
性能								
寸法	数量 885×1,783	数量 800×1,803	数量 610×1,788	数量 1,615 (1,440) × 1,988	数量 1,615 × 1,988	数量 1,615 × 1,988	数量 800 × 1,803	数量 800 × 1,803
使用箇所	ホール	居室(1), 居室(2)	ホール 物入	居室(1) 物入	居室(2) 物入	便所	台所	居室(3)
図面								
枠・見込	扉: 33	扉: 21	扉: 21	扉: 21	扉: 21	扉: 30	扉: 30	扉: 21
仕上	両面プリント合板 t=2.5 小口貼 (米相) t=8	両面: ビニール系機紙 枠: スプルス	ホール側: ビニール系機紙 枠: スプルス 物入側: 雲花紙	居室(1)側: ビニール系機紙 枠: スプルス 物入側: 雲花紙	居室(2)側: ビニール系機紙 枠: スプルス 物入側: 雲花紙	ホール側: プリント合板 t=2.5 便所側: 塩ビ合板 t=2.5 小口貼 (米相) t=8	両面プリント合板 t=2.5 小口貼 (米相) t=8	両面: ビニール系機紙 枠: スプルス
ガラス	樹脂ガラス t=2.5 シリコンシーリング留め					樹脂ガラス t=2.5 シリコンシーリング留め		
金物	ステンレス丁番 (2ヶ所)、アルミレバーハンドル おとり止め付上扉戸当り (1ヶ所)	内丸引手 (2ヶ所) ゴム戸当り15d (1ヶ所)	ステンレス丁番 2ヶ所、ステンレス製取手 ローラーキャッチ、通気孔4.5φ (表裏共・SUS430)	内丸引手 (2ヶ所)	内丸引手 (2ヶ所)	樹脂ガラス t=2.5 シリコンシーリング留め 握棒、非常解放装置用握棒 (表示付)、ゴム戸当り15d (1ヶ所)、テーパー付戸車 (2ヶ所)、アルミ台付レール (S)	テーパー付戸車 (2ヶ所)、アルミ台付レール (S)、内丸引手 (2ヶ所)、ゴム戸当り15d (1ヶ所)	内丸引手 (6ヶ所)
備考	<内装部品>	<細子ペーパーハニカム戸襖>	<細子ペーパーハニカム戸襖>	<細子ペーパーハニカム戸襖>	<細子ペーパーハニカム戸襖>	<内装部品>	<内装部品>	<細子ペーパーハニカム戸襖>
符号・形式	(F.1) 引違い機戸	(F.2) 引違い機戸 (天袋)						
性能								
寸法	数量 1,615 × 1,800	数量 1,615 × 532						
使用箇所	居室(3) 押入	居室(3) 押入						
図面								
枠・見込	扉: 21	扉: 21						
仕上	居室(3)側: 新鳥の子紙 押入側: 雲花紙	居室(3)側: 新鳥の子紙 押入側: 雲花紙						
ガラス								
金物	引手 (金属製)	引手 (金属製)						
備考								

- 特記
- ① 建具寸法 (W×H) は、開口内法有効寸法とする。
  - ② 備考欄にある <> は、内装部品とする。
  - ③ 網入りガラスは、シリコンシーリング留めとする。
  - ④ WD- のシリコンシーリング留めは、A型シリコンシーリング材 (1成分形、高モジュラス形) 9030Gとする。
  - ⑤ 耐風圧性は、4階以下: 2.0 (S-4)、5階以上: 2.80 (S-6) とする。(耐風圧強度計算書は提出すること)
  - ⑥ RL-B型サッシは、日本工業規格に規定する試験方法により透過損失の平均値が、2.0db以上であること。
  - ⑦ 有効開口幅は建具の厚み、引き残しを考慮した幅とする。

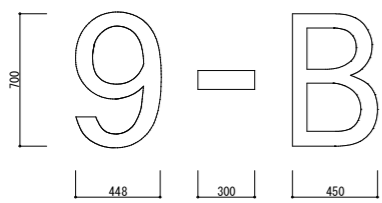
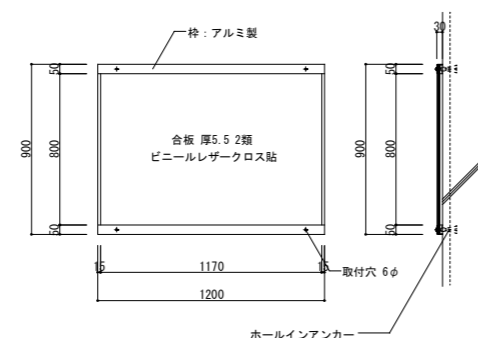
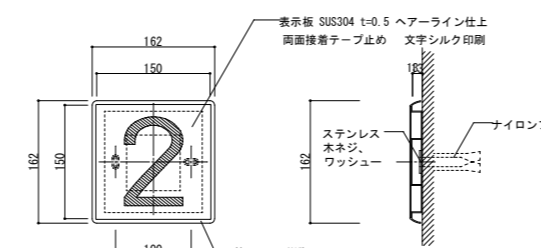
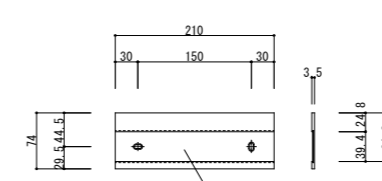
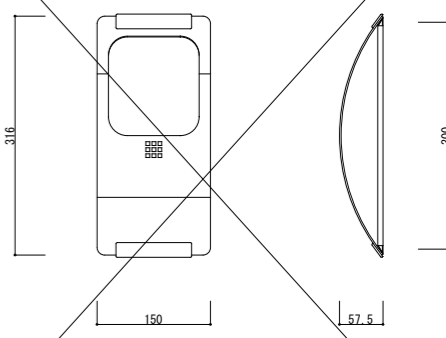
※T-1以上を使用すること。(共通)

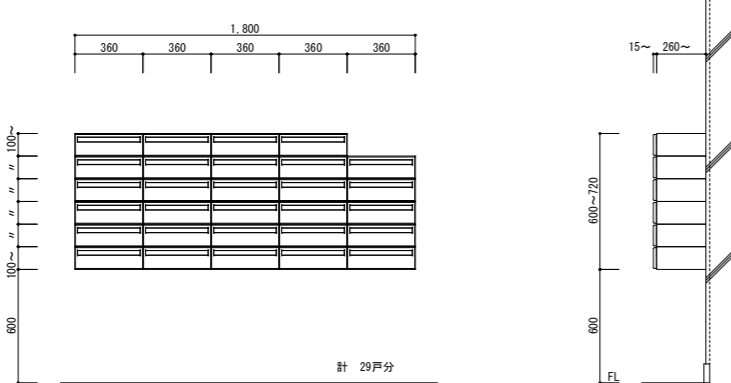
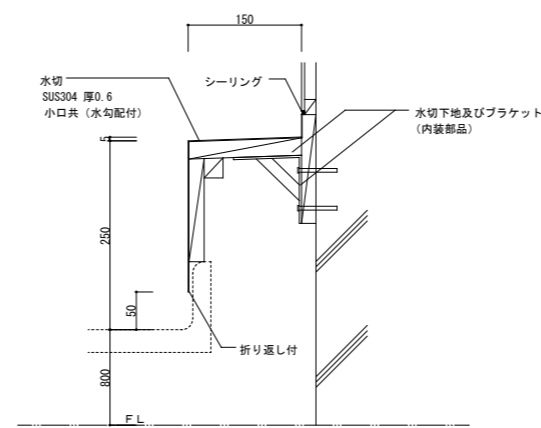
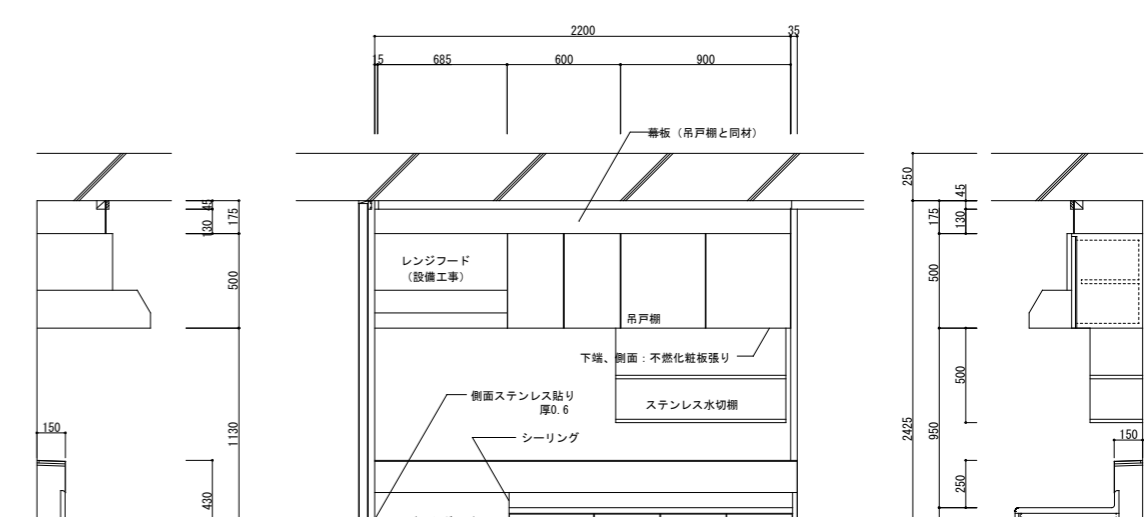
区分記号	防犯対策区分内容	設置階
a	住戸の出入口	すべての階
b	地面から開口部の下端までの高さが2m以下、又はn'k2-等から開口部の下端までの高さが2m以下であって、かつ、n'k2-等から当該開口部までの水平距離が0.9m以下であるもの (a.に該当するものを除く)	1階
c	その他の開口部	該当なし
b・	区分b.のうち共用廊下または共用階段等の近傍にあるもの	2階以上
b・	区分b.のうちn'k2-等の近傍にあるもの	2階以上

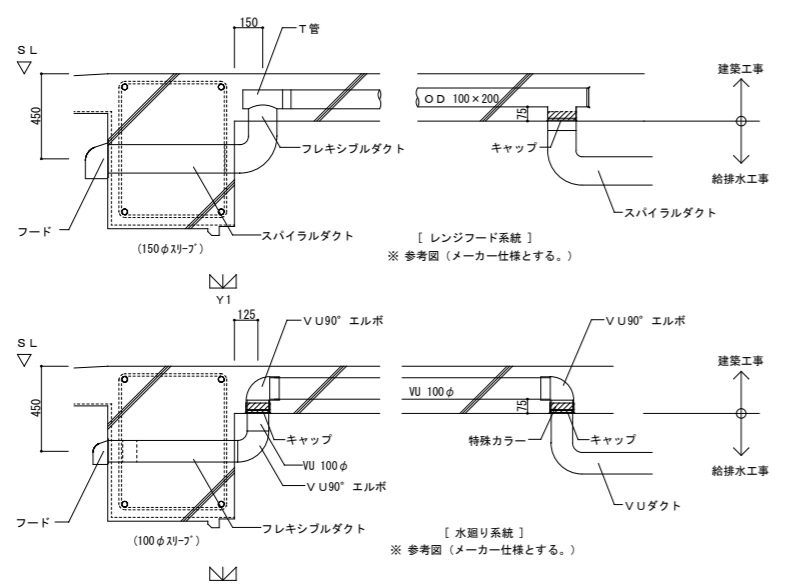
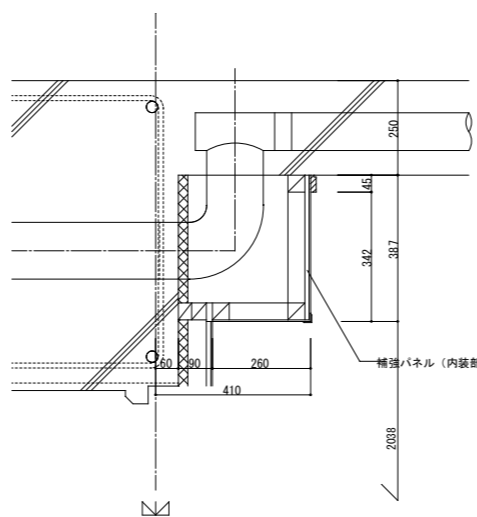
※防犯建物部品対応 (区分a, bのn'k2-側に該当する) 開口部は侵入防止対策上有効な措置の講じられた開口部とする。



建具キープラン

D-1	様番号	1/20・1/3	D-2	掲示板	1/20	D-3	階数表示板	1/5・1/2	D-4	室名札	1/5	D-5	玄関ポーチ 新聞受け (2DKS)	1/5
														

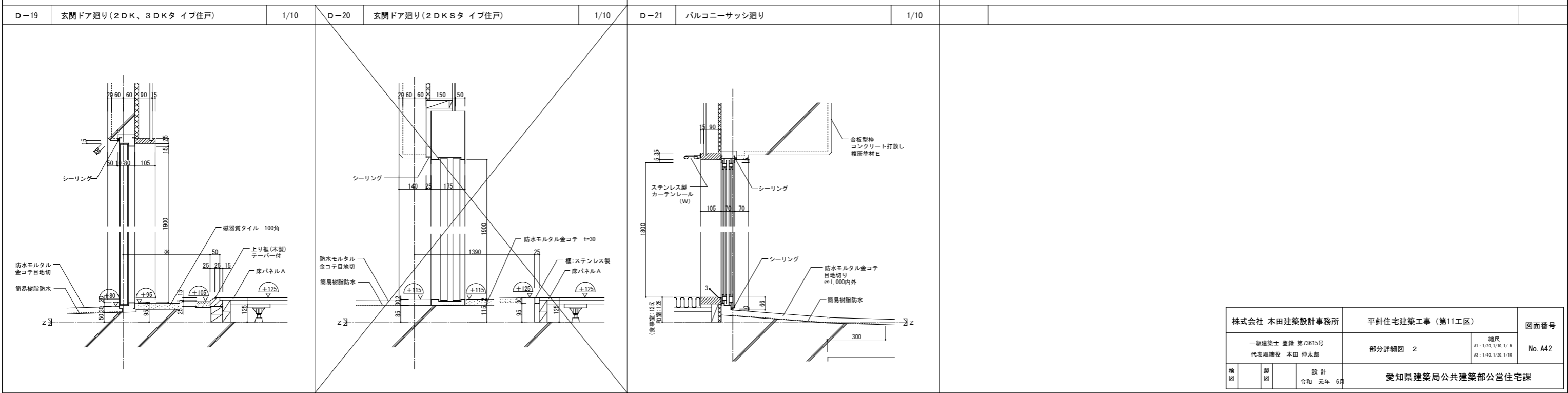
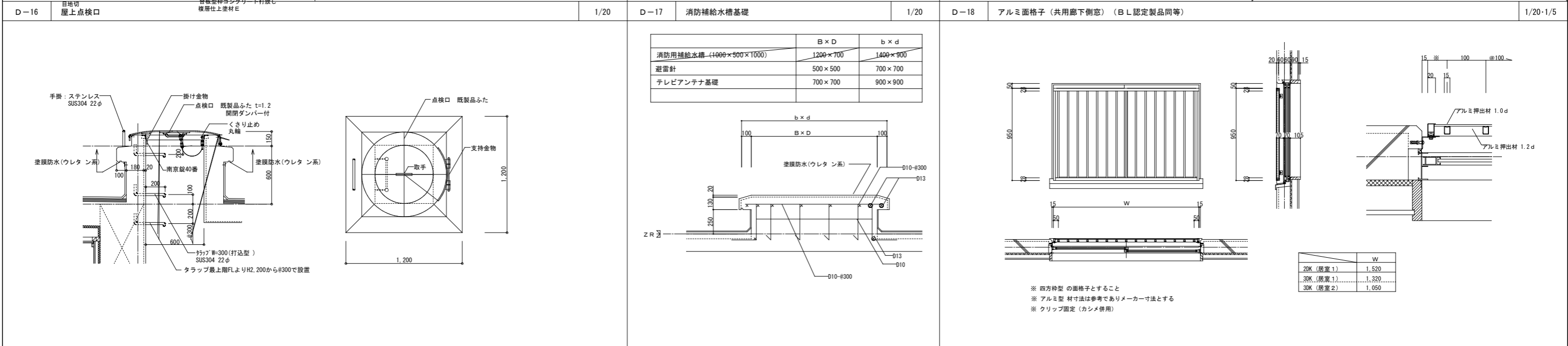
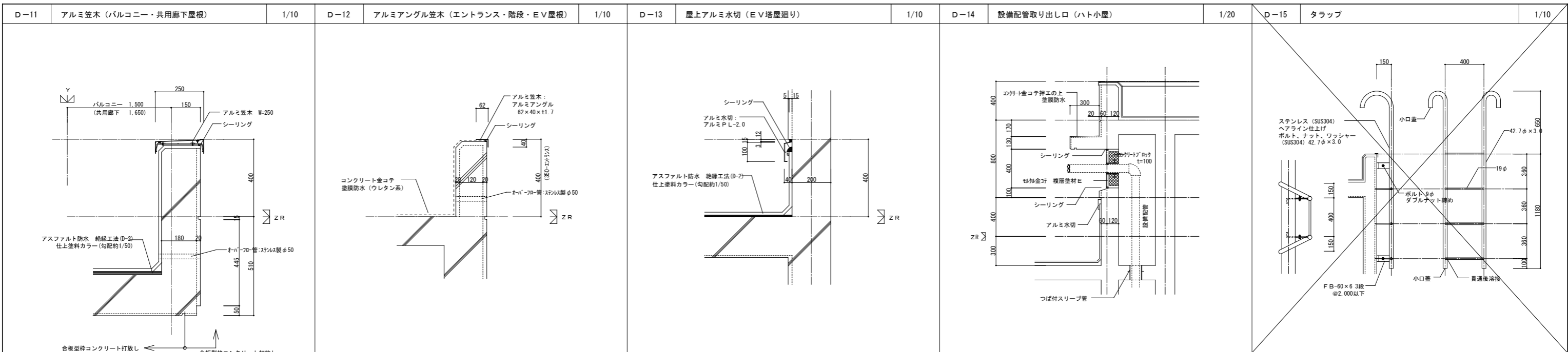
D-6	集合郵便受	1/20	D-7	ステンレス水切 (台所)	1/5	D-8	流し台、ガス台、吊戸棚、ステンレス水切棚 (台所)	1/20
								

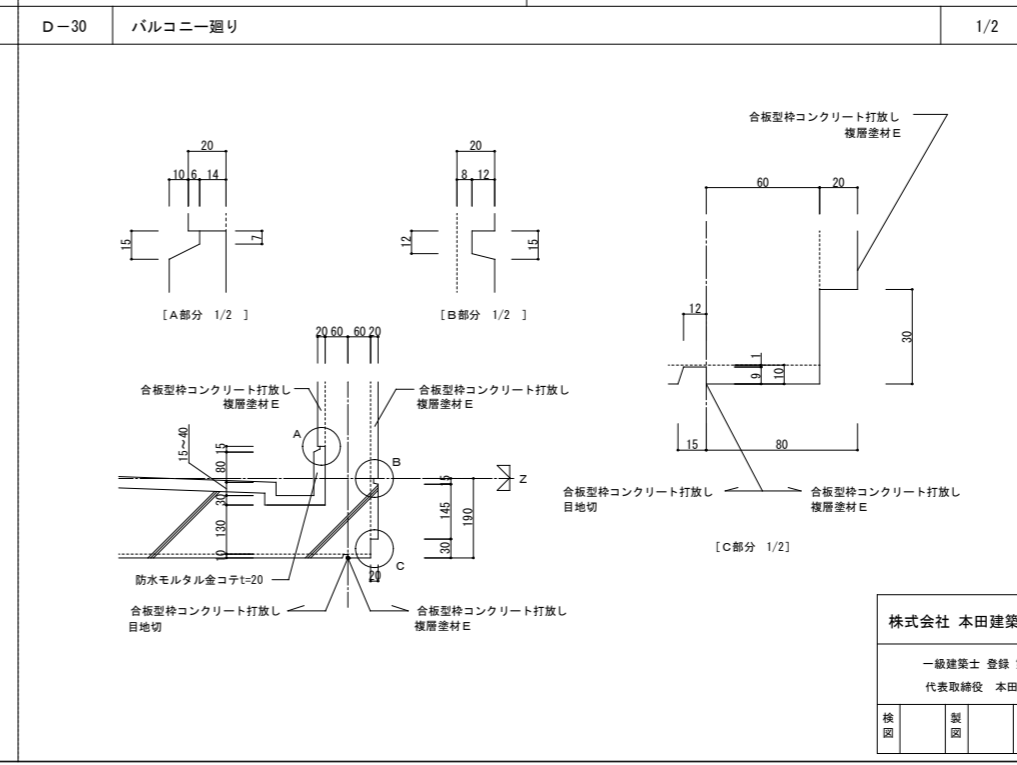
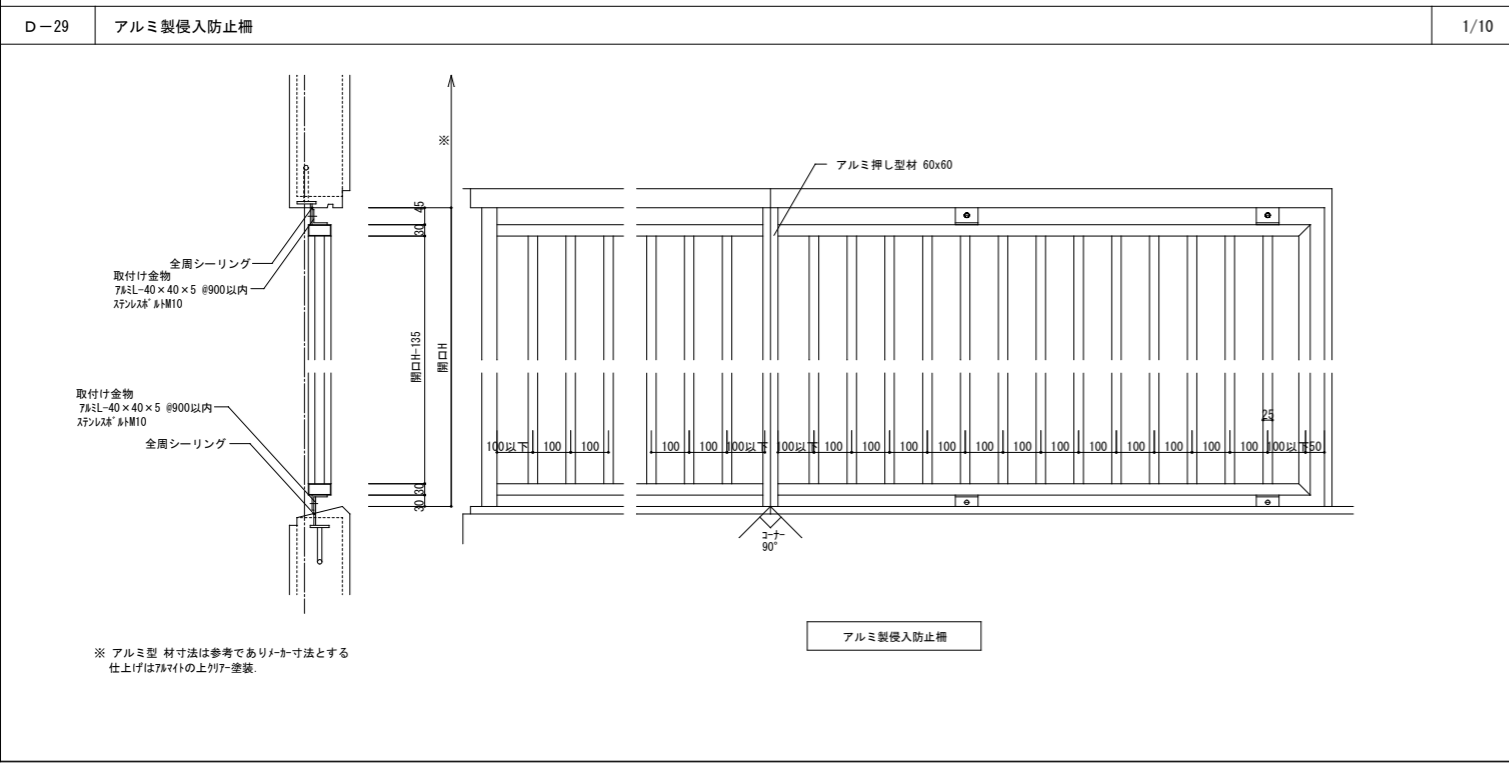
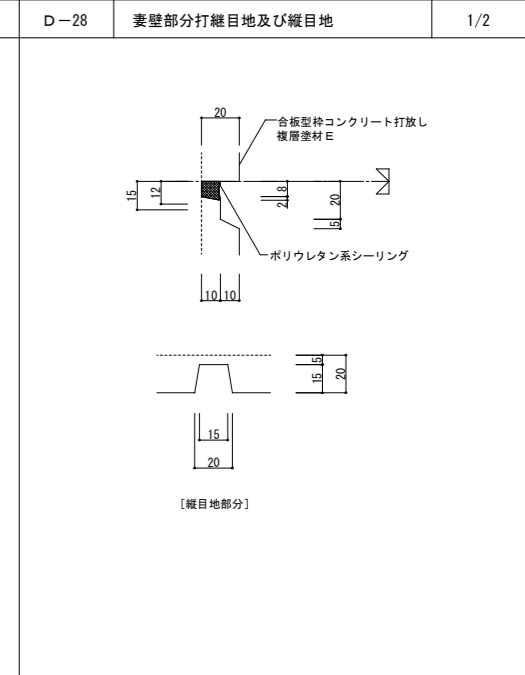
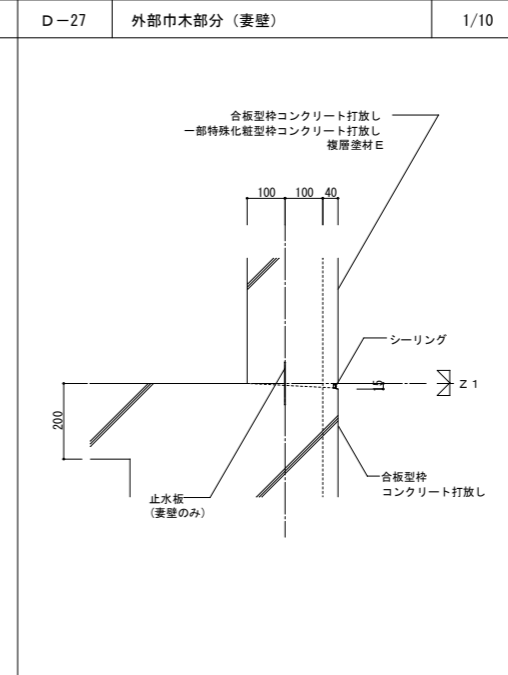
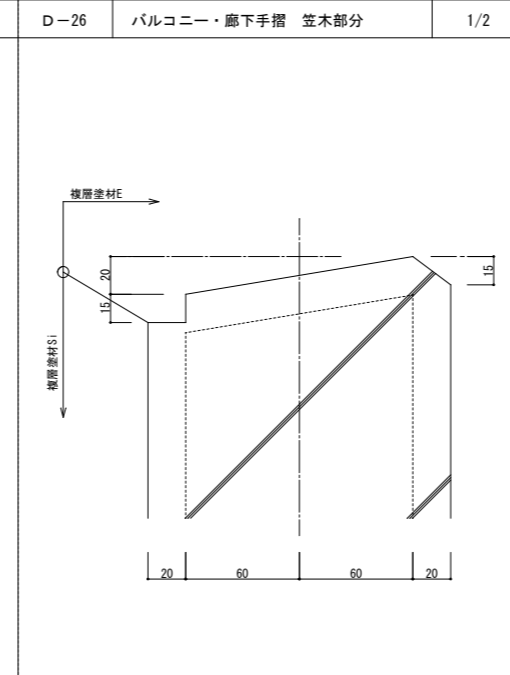
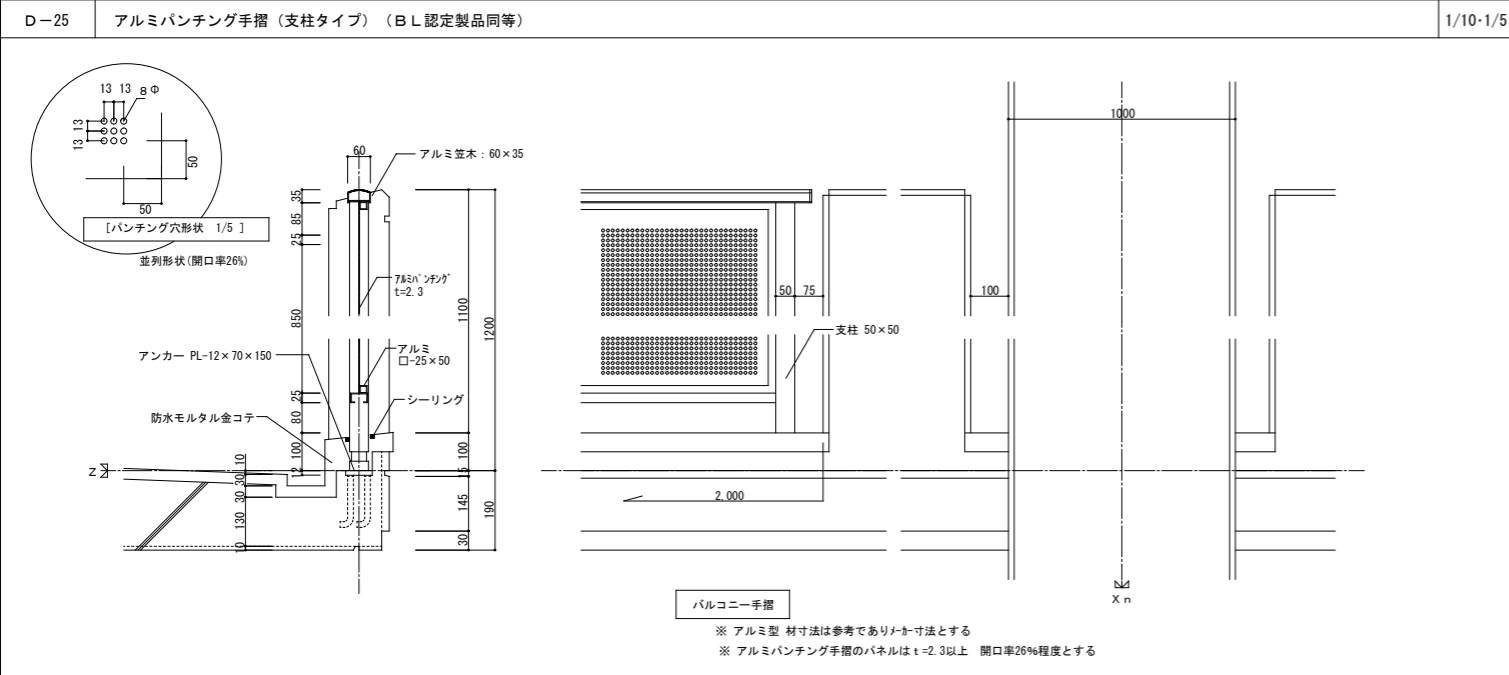
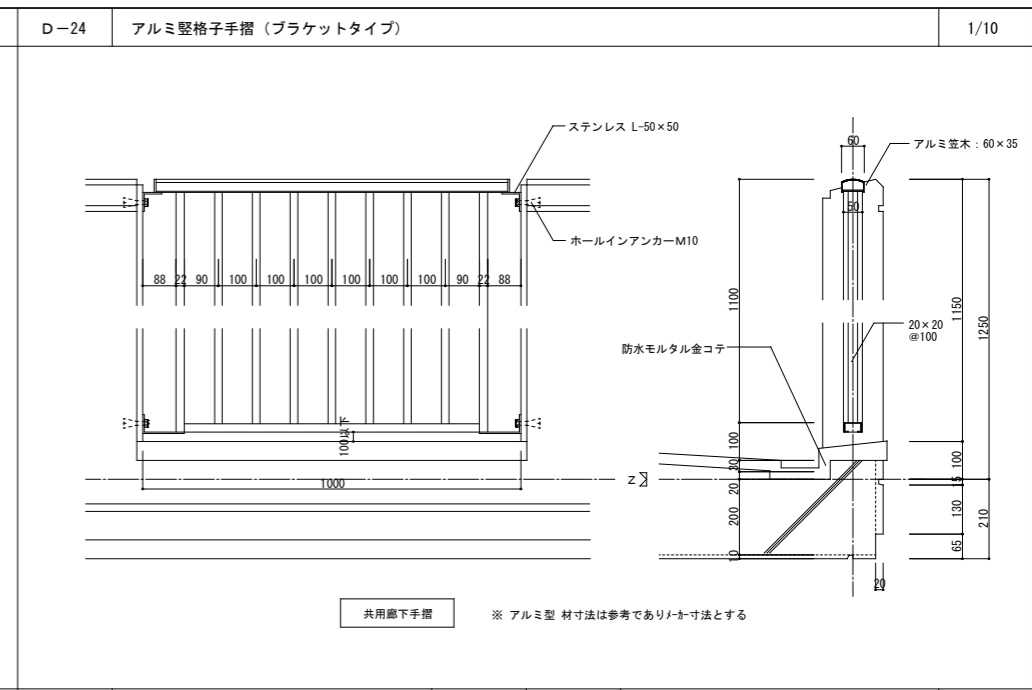
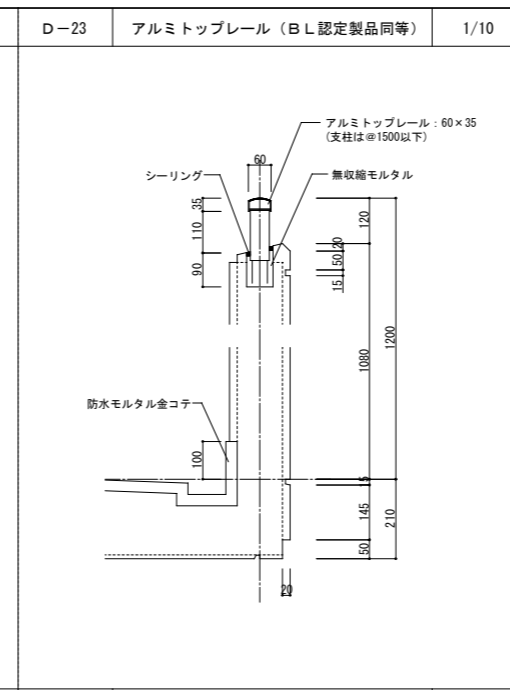
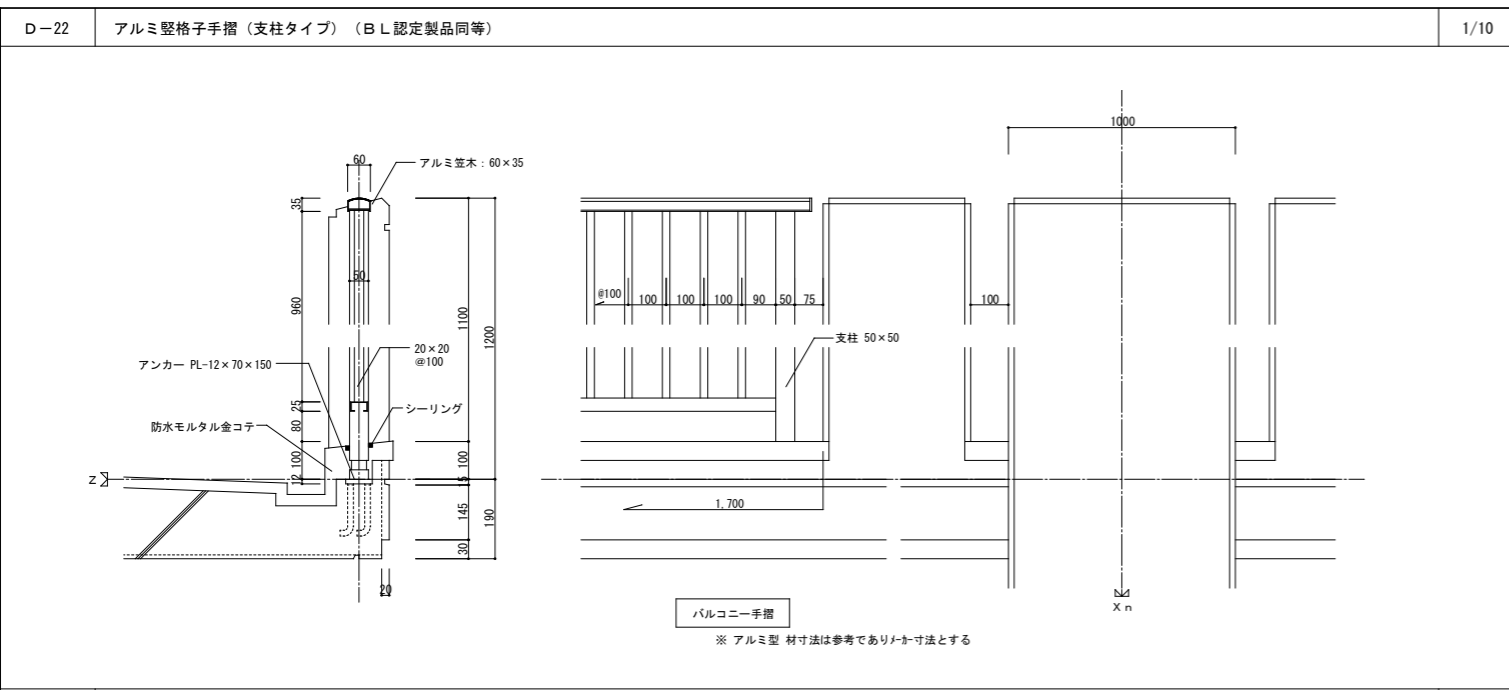
D-9	ボイドスラブ内 打込み排気ダクト詳細	1/20	D-10	ダクト囲い詳細	1/10
					

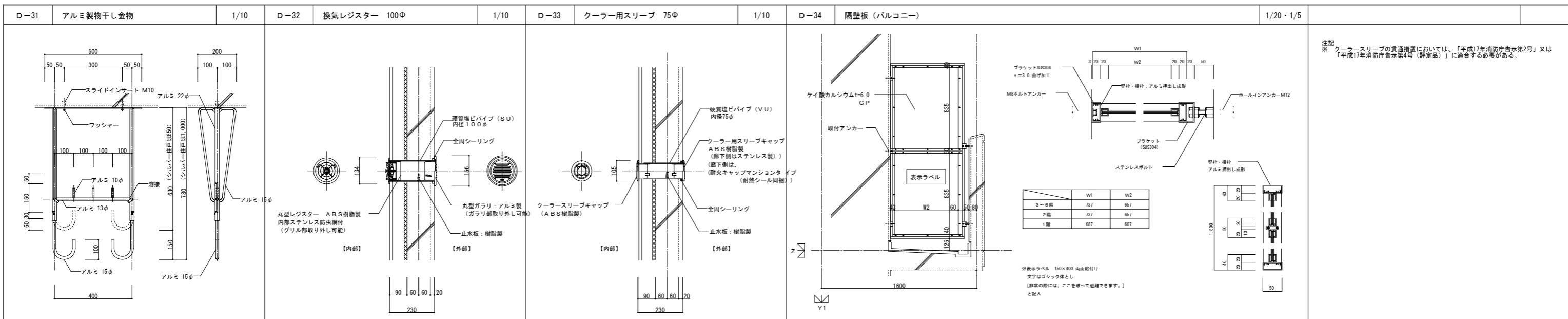
※ 給排水工事 (幕板共)			
吊戸棚	BL-I型	L×W×H	(900×600)×370×500
換気扇用フードカバー			600×575×500
ステンレス水切棚			900×270×470
流し台洗	BL-I型 (トラップ付)		1,500×550×800
ガス台	BL-I型 (バックガード付)		700×545×620
※戸当りはなみだ目貼付 (必要箇所)			

株式会社 本田建築設計事務所	平針住宅建築工事 (第11工区)	図面番号
一級建築士 登録 第73615号	部分詳細図 1	縮尺
代表取締役 本田 伸太郎		A1: 1/20, 1/30, 1/5, 1/3, 1/2 A3: 1/40, 1/20, 1/10, 1/6, 1/4
検 図	製 図	設 計
		令和 元年 6月
愛知県建築局公共建築部公営住宅課		

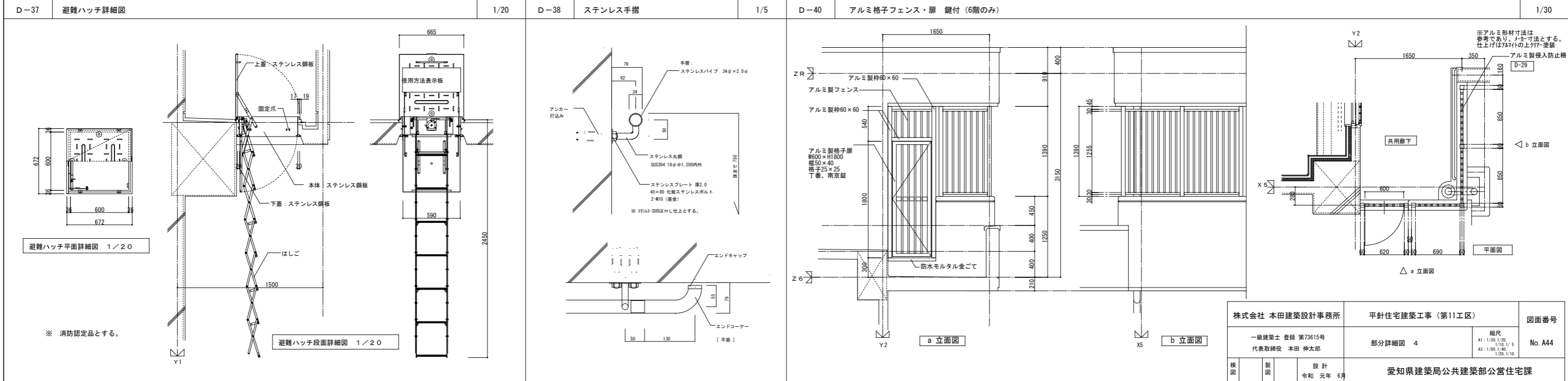
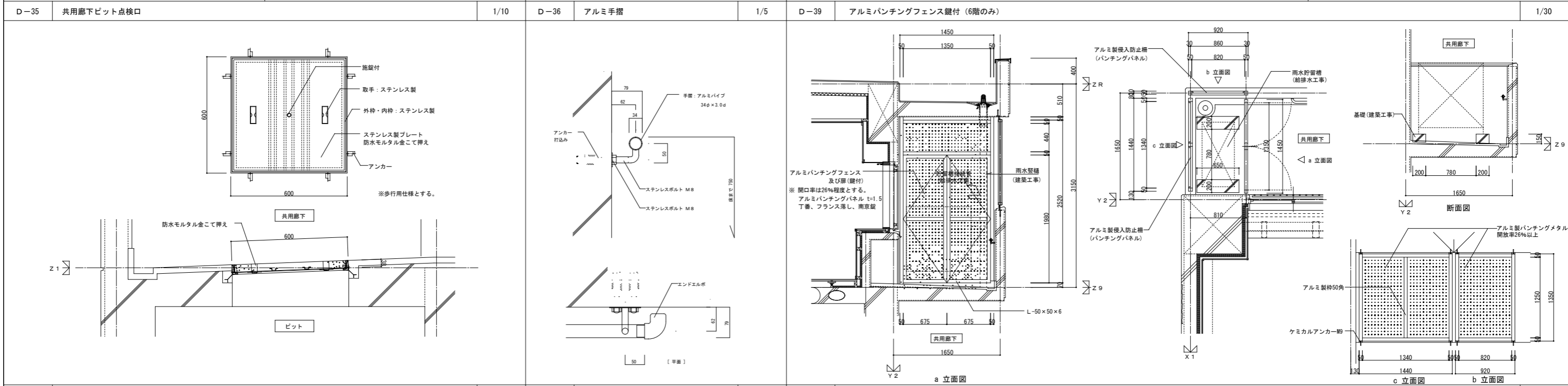




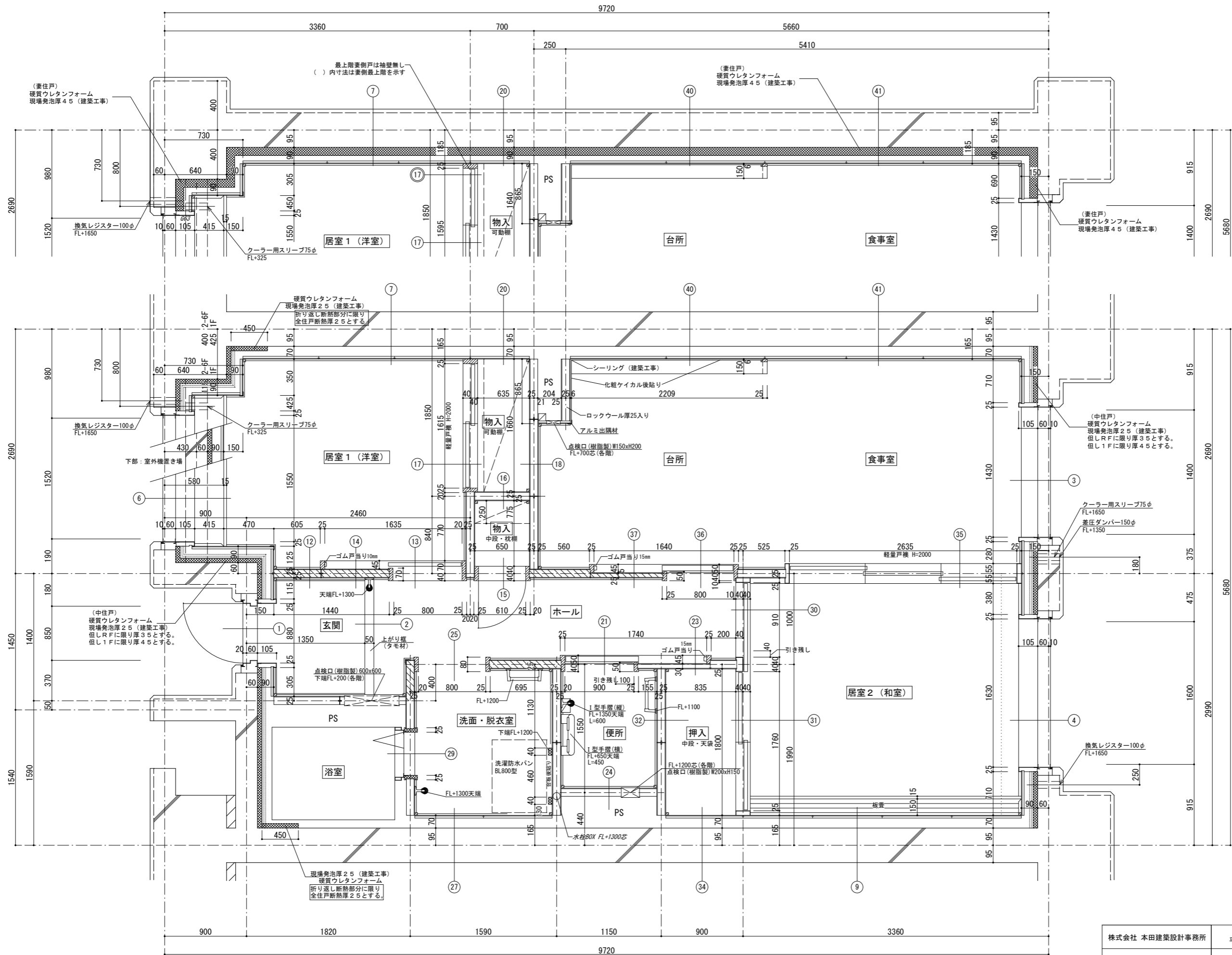
株式会社 本田建築設計事務所		平針住宅建築工事（第11工区）		図面番号
一級建築士 登録 第73615号 代表取締役 本田 伸太郎		部分詳細図 3		No. A43
設計 令和 元年 6月		縮尺 A1: 1/10, 1/5, 1/2 A3: 1/20, 1/10, 1/4		
愛知県建築局公共建築部公営住宅課				



注記  
 ※クーラー用スリーブの貫通措置においては、「平成17年消防庁告示第2号」又は「平成17年消防庁告示第4号(評定品)」に適合する必要がある。



株式会社 本田建築設計事務所		平針住宅建築工事 (第11工区)		図面番号
一級建築士 登録 第73615号	代表取締役 本田 伸太郎	縮尺	No. A44	
		A1: 1/30, 1/20		
		A3: 1/60, 1/40		
		1/20, 1/10		
検図	製図	設計	愛知県建築局公共建築部公営住宅課	
		令和 元年 6月		

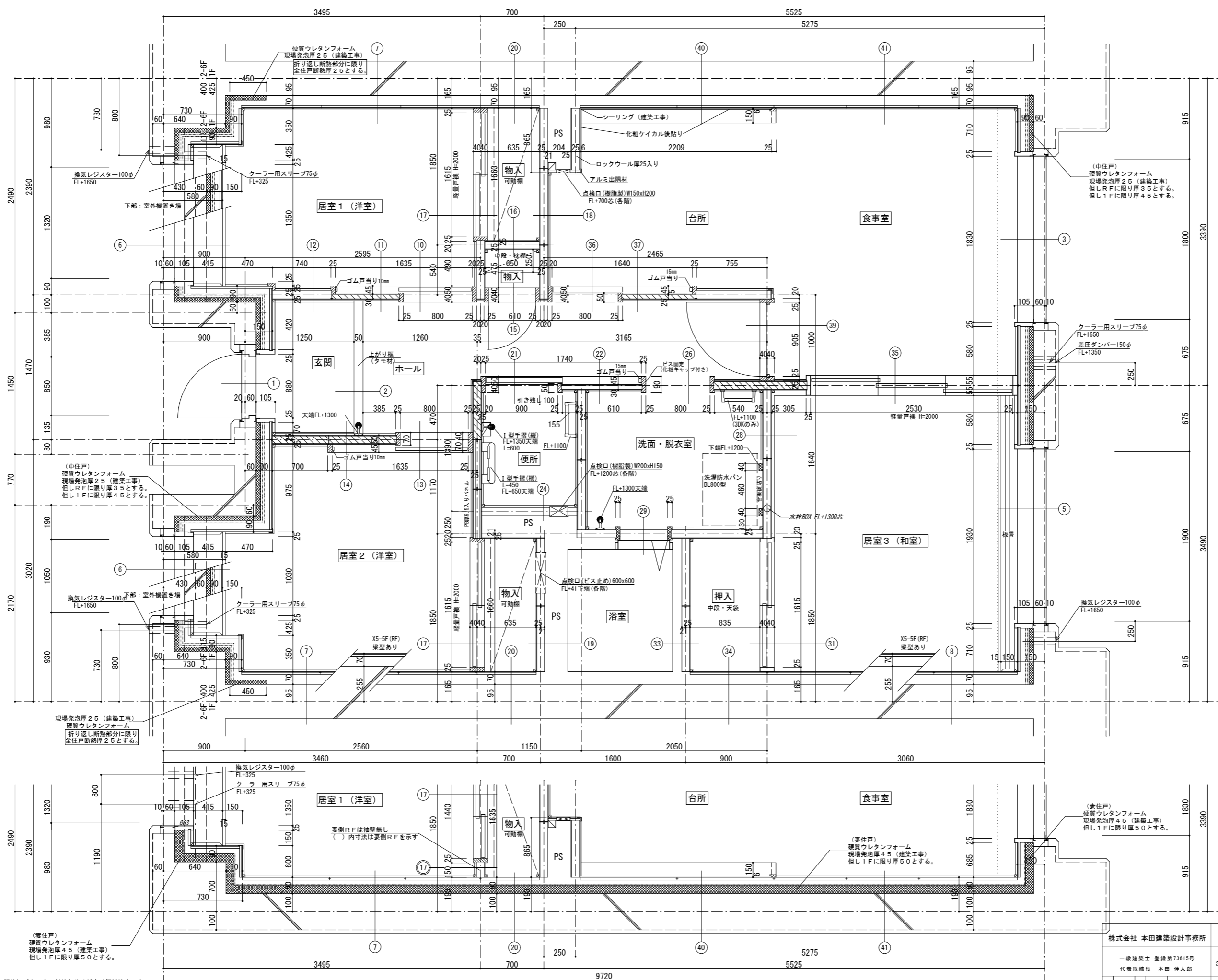


DK側妻側戸  
最上階：梁型なし

中間戸

間仕切パネル内の斜線部分は将来手摺補強を示す。  
(玄関・ホール FL+800)

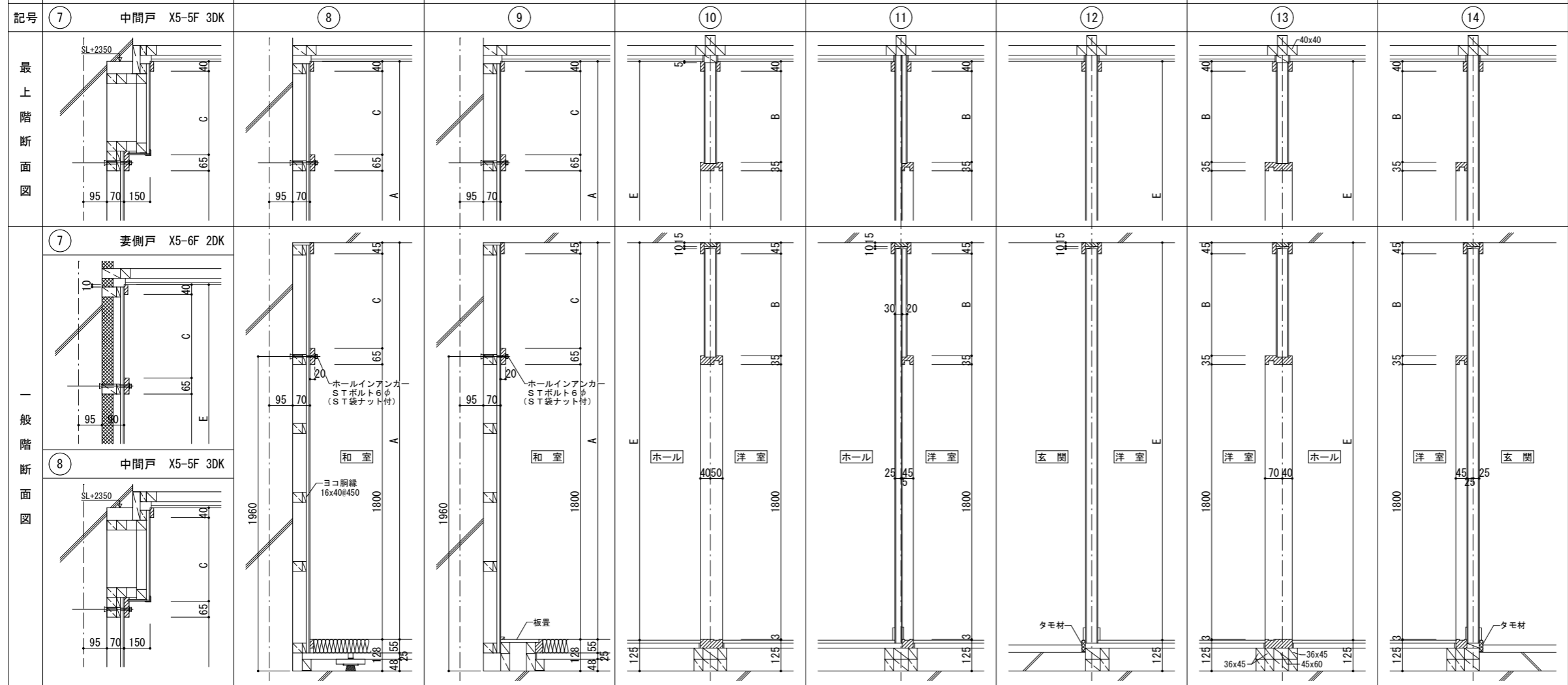
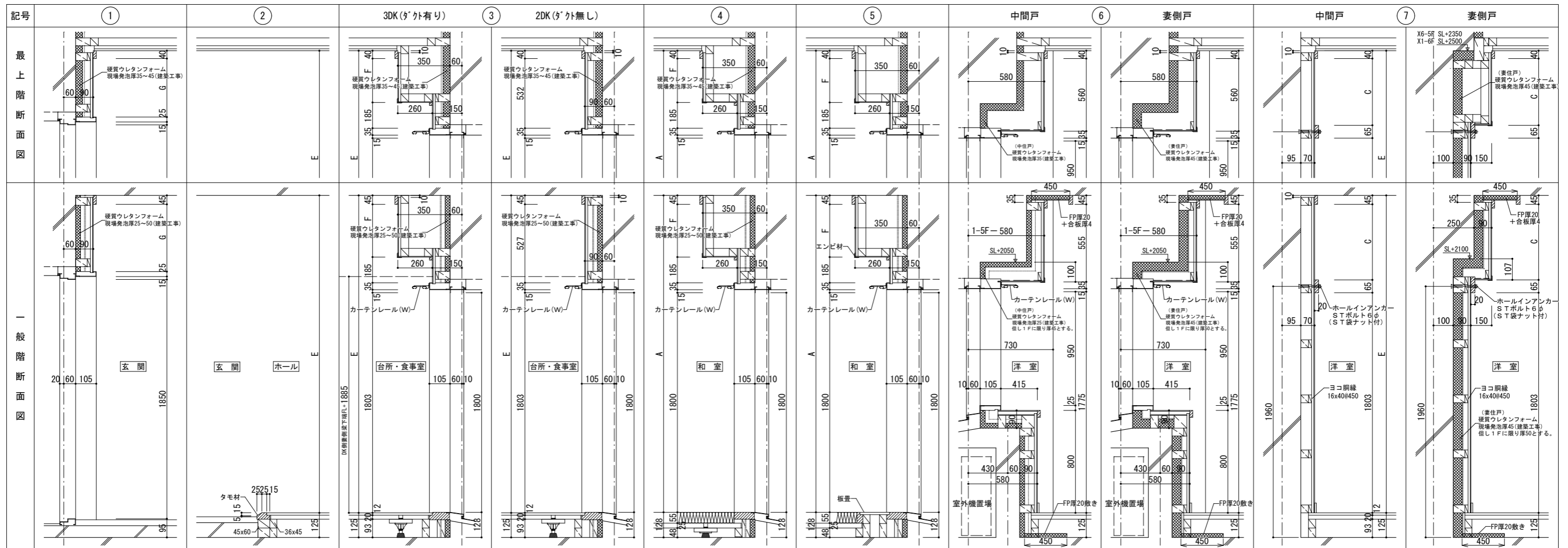
株式会社 本田建築設計事務所	平針住宅建築工事 (第11工区)	図面番号
一級建築士 登録第73615号 代表取締役 本田 伸太郎	2DKタイプ 内装平面詳細図	縮尺 A1: 1/20 A3: 1/40 No. A45
検 査 製 図 設 計 令和元年 6月	愛知県建築局公共建築部公営住宅課	



DK側妻側戸  
 最上階：梁型あり  
 一般階：梁型あり

間仕切パネル内の斜線部分は将来手摺補強を示す。  
 (玄関・ホール FL+800)

株式会社 本田建築設計事務所		平針住宅建築工事 (第11工区)		図面番号
一級建築士 登録第73615号 代表取締役 本田 伸太郎		3DKタイプ 内装平面詳細図		縮尺 A1: 1/20 A3: 1/40
検	製	設	計	No. A46
		令和元年 6月		愛知県建築局公共建築部公営住宅課



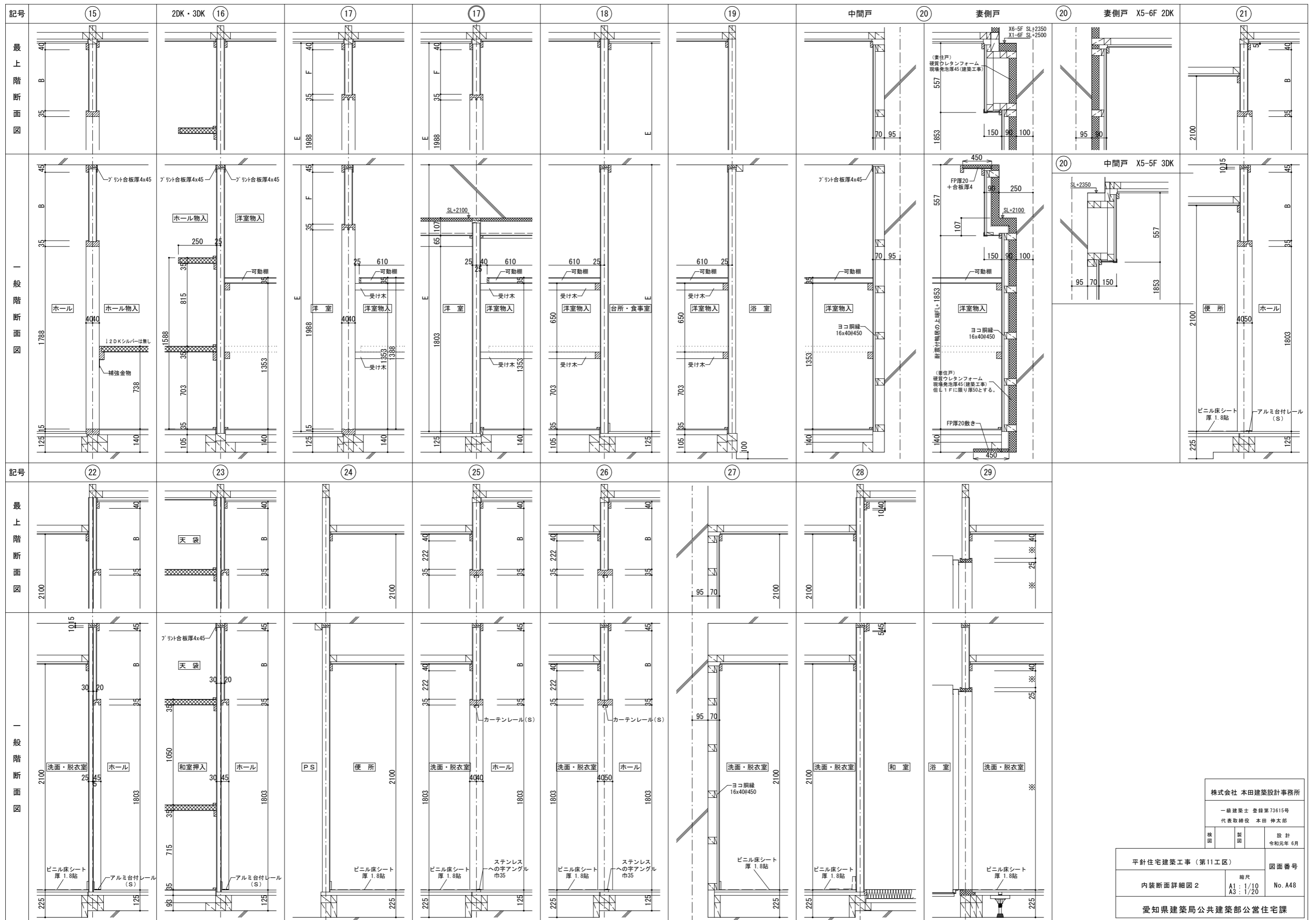
スラブ厚250mm/mに対する高さ寸法

階高	和室天井高	A	B	C	D	洋室天井高	E	F	G	H
最上階	3150	2422	547	517	532	2425	347	525	135	
一般階	2800	2422	542	512	532	2425	342	520	130	

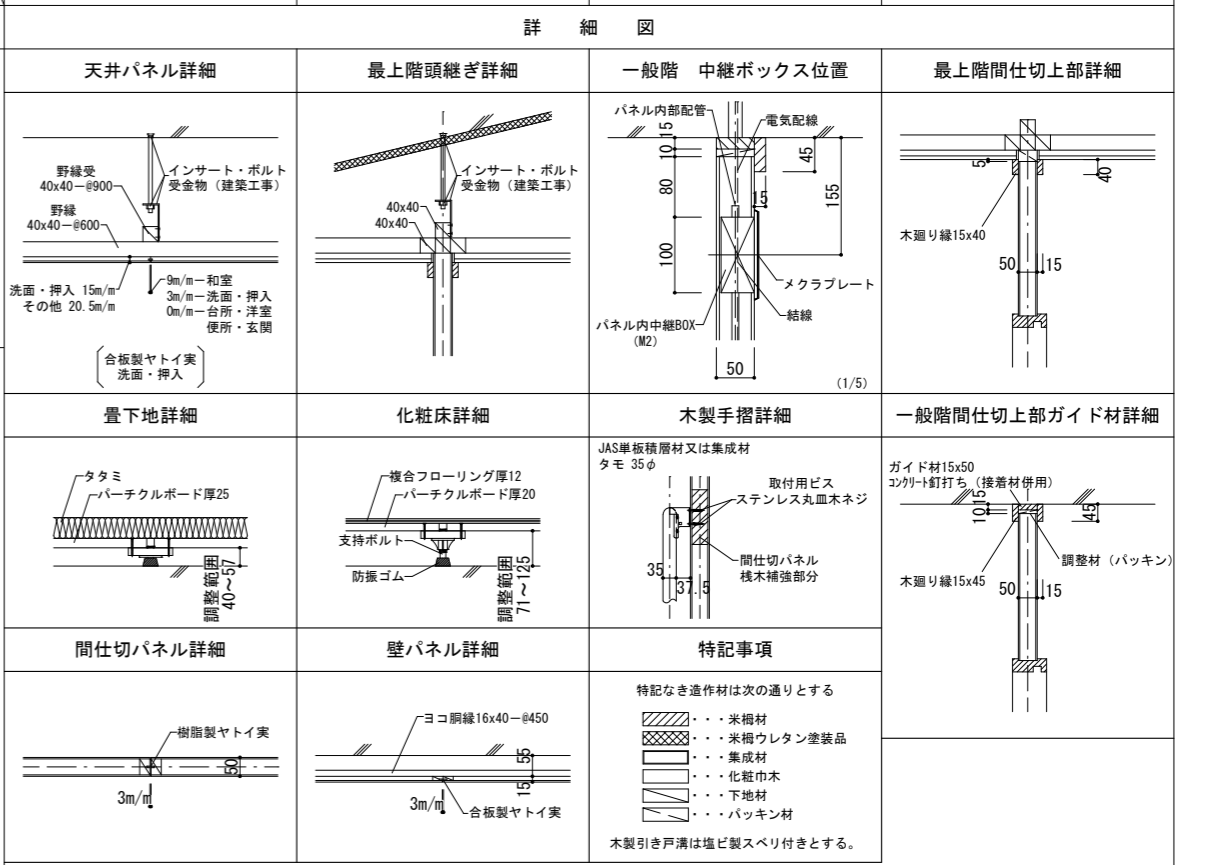
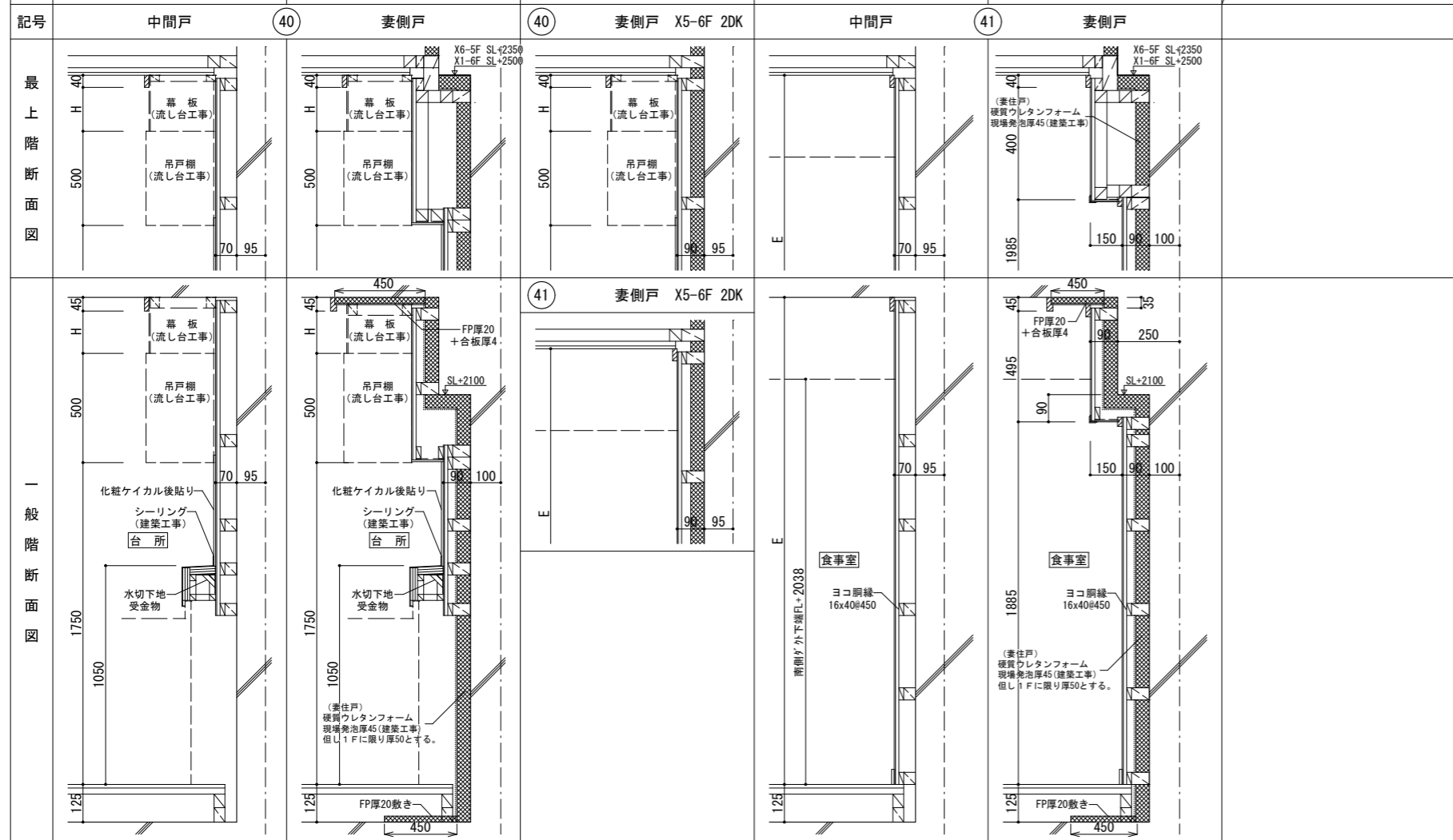
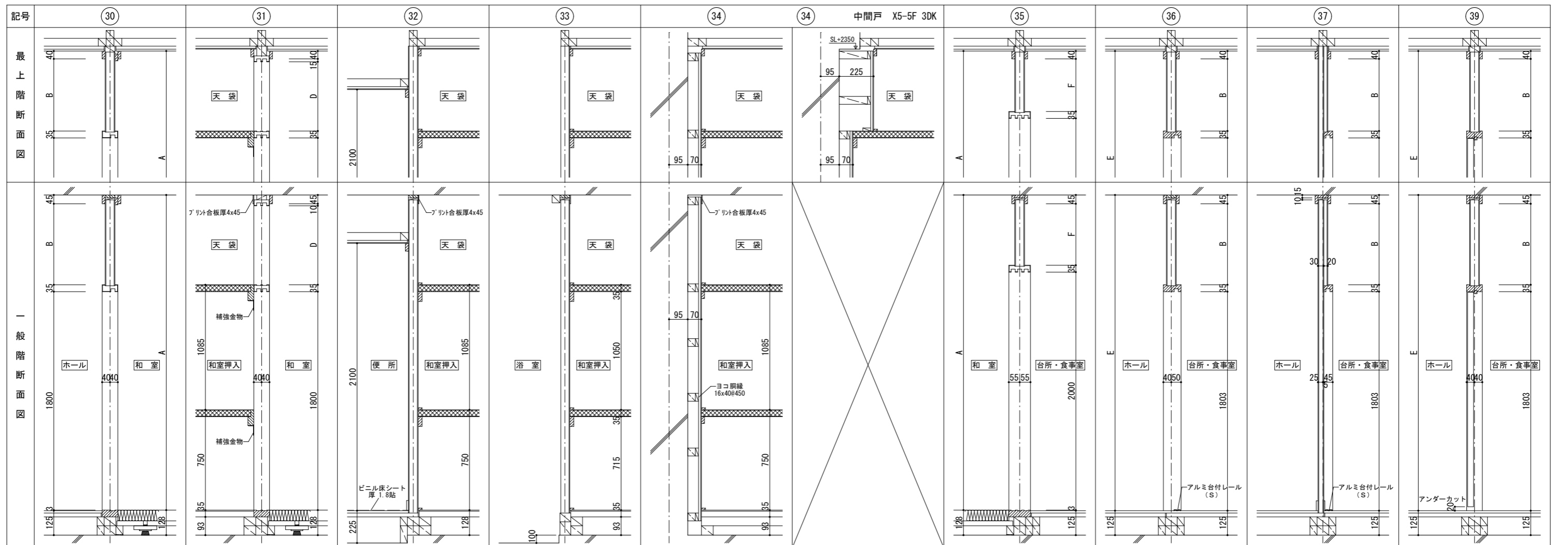
株式会社 本田建築設計事務所  
 一級建築士 登録第73615号  
 代表取締役 本田 伸太郎  
 検図 製図 設計  
 令和元年 6月

平針住宅建築工事 (第11工区) 図面番号  
 内装断面詳細図 1 縮尺 A1: 1/10 A3: 1/20 No. A47  
 愛知県建築局公共建築部公営住宅課

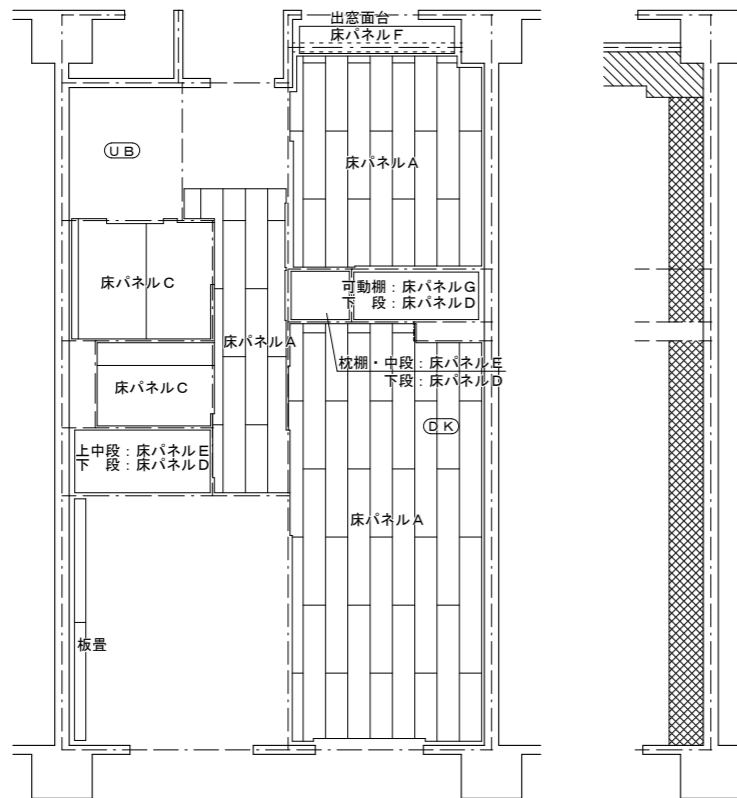
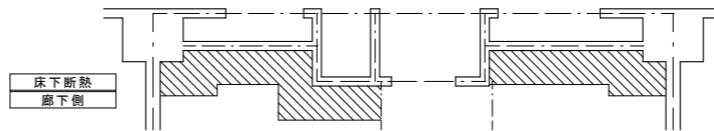
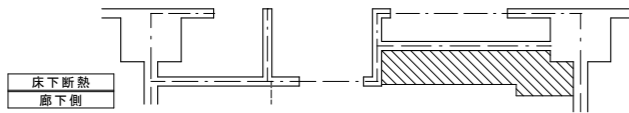




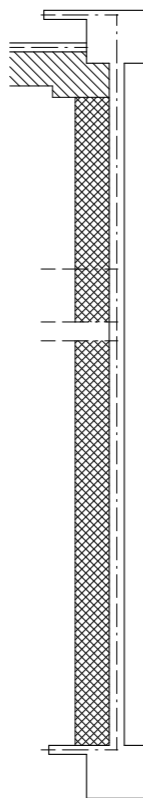
株式会社 本田建築設計事務所		
一級建築士 登録第 73615 号		
代表取締役 本田 伸太郎		
検図	製図	設計
		令和元年 6月
平針住宅建築工事 (第11工区)		図面番号
内装断面詳細図 2		No. A48
縮尺 A1 : 1/10 A3 : 1/20		
愛知県建築局 公共建築部 公営住宅課		



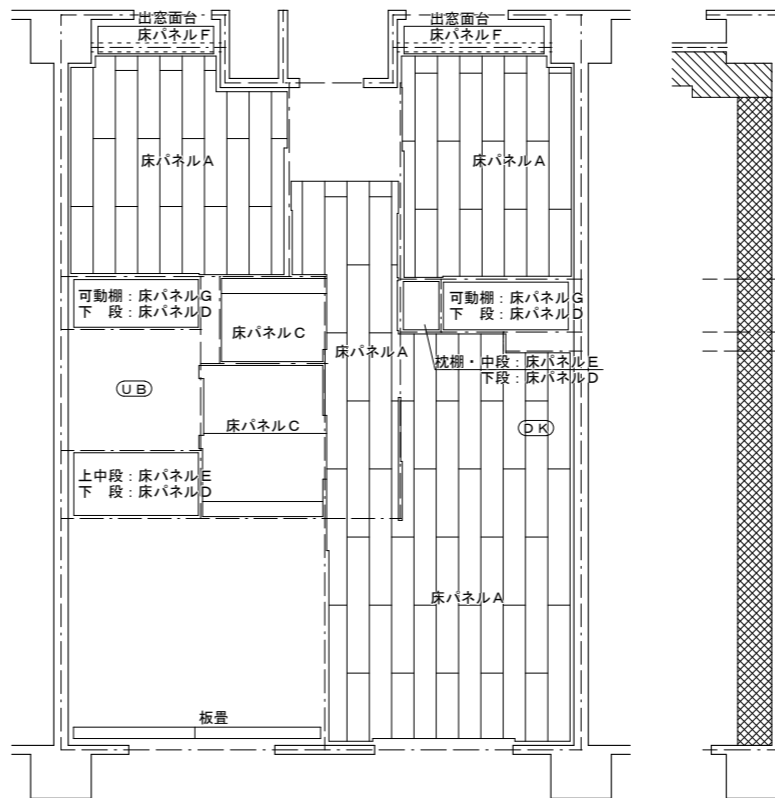
株式会社 本田建築設計事務所		平針住宅建築工事 (第11工区)		図面番号
一級建築士 登録第73615号		代表取締役 本田 伸太郎		縮尺
No. A49		A1 : 1/10		A3 : 1/20
No. A49		No. A49		No. A49
令和元年 6月		愛知県建設部建築局公営住宅課		



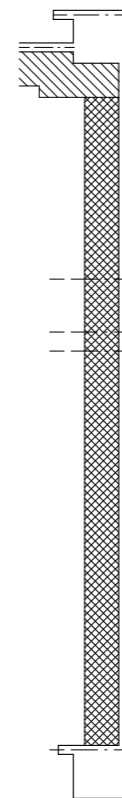
床伏図  
2DKタイプ



床下断熱  
DK側妻



床伏図  
3DKタイプ



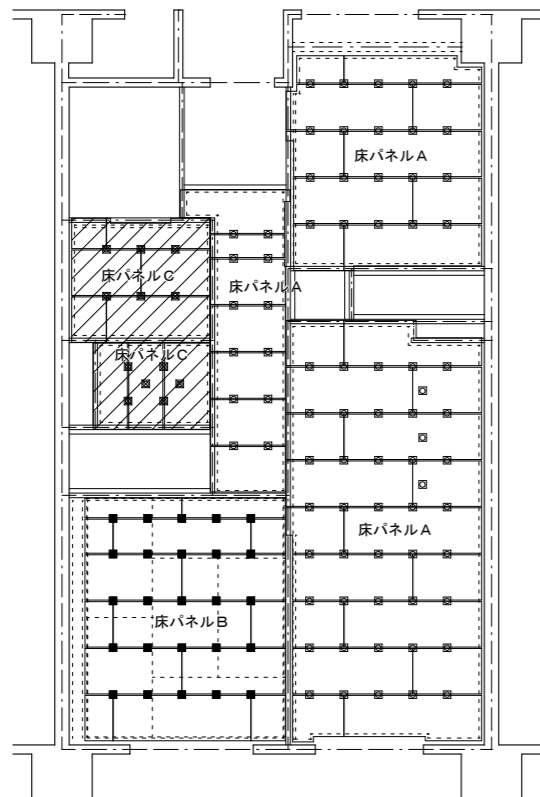
床下断熱  
DK側妻

- 支持脚 (30-85) を示す。
- ⊗ 支持脚 (50-185) を示す。
- 支持脚 (5-48) を示す。
- 流し台下のみ支持脚 (30-73) を3ヶ補強として拾う。
- 便所床のみ支持脚 (50-148) を2ヶ補強として拾う。
- 際根太 36×45を示す。
- 敷居下・パネル受け・パネル掛け 45×60を示す。

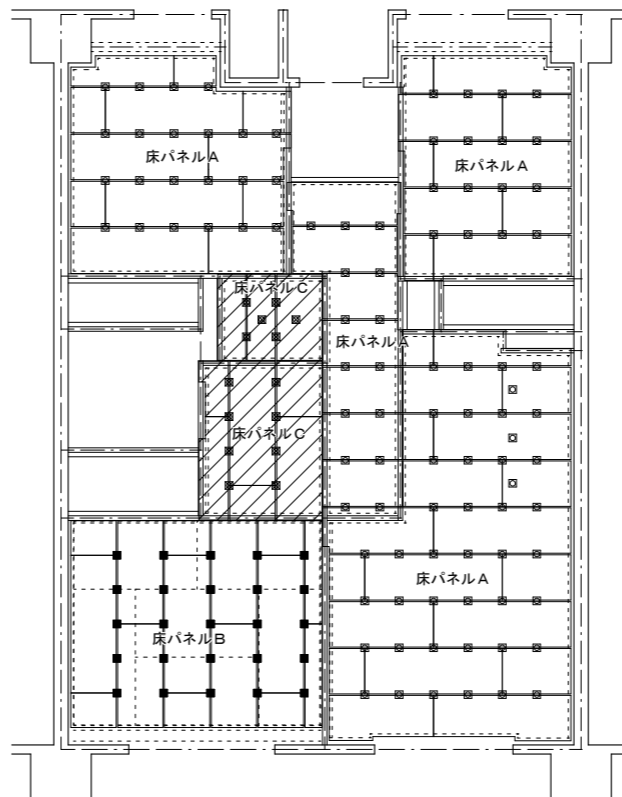
の斜線は共用廊下側の居室・DK・物入類のみ  
FP厚20 (保温板3種b) 敷き込み範囲を示す。  
断熱範囲は壁断熱吹き付け面より450mmとする。

は妻側の居室・DK・物入類のみ  
FP厚20 (保温板3種b) 敷き込み範囲を示す。  
断熱範囲は壁断熱吹き付け面より450mmとする。

の斜線はパーチクルボードパラフィン処理範囲を示す。  
パラフィン処理は洗面・便所のみを範囲とする。



床下地伏図  
2DKタイプ



床下地伏図  
3DKタイプ

表面材		
床パネルA	複合フローリング (ナラ・タモ化粧) パーチクルボード	712.0 720.0
床パネルB	パーチクルボード	725.0
床パネルC	ビニル床シート 防虫合板 パーチクルボード (パラフィン処理)	71.8 712.0 (T1) 720.0
床パネルD	ラワン合板	75.5 (T2)
床パネルE	MD F	72.7
床パネルF	ポリエステル化粧合板	74.0 (T1)
床パネルG	MD F	74.0



基本パネル標準図

名称	押入・物入 (床パネル・可動棚パネル)	押入・物入棚パネル	壁・間仕切パネル	壁・間仕切小壁パネル	天井パネル (合板)	天井パネル (断熱入り)	天井パネル (石膏ボード)
厚さ	35	35	15・46・50	15・46・50	15	20+4	20.5
仕様	中棧はピッチ225mm以内とする	ペーパーハニカムコア充填	中棧はピッチ450mm以内とする	中棧はピッチ450mm以内とする	中棧はピッチ450mm以内とする	中棧はピッチ450mm以内とする	中棧はピッチ600mm以内とする
基本構造図							

※ FP 厚20は保温板3種bとする。

分類	タオル掛け・紙巻き器補強	L型手摺補強	洗面化粧台・キャビネット補強	棚受け桟木補強	押入棚受け補強	縦1型手摺補強	将来対応手摺補強	吊り戸棚・水切下地補強	耐震付鴨居補強	PB入りパネル	炭化防止パネル	炭化防止パネル	クーラー補強
パネル	壁・間仕切パネル	壁・間仕切パネル	壁・間仕切パネル	壁・間仕切パネル	壁・間仕切パネル	壁・間仕切パネル	間仕切パネル	壁・間仕切パネル	壁・間仕切パネル	間仕切パネル	壁パネル	間仕切パネル	壁パネル
基本補強図													

分類	差圧ダンパー補強 分電盤・ガスコック補強	スイッチ・コンセント補強 クーラースリプ補強	換気スリプ補強	電気BOX内蔵パネル 間仕切パネル	点検口付パネル 天井パネル	点検口付パネル 壁・間仕切パネル	乾式二重床
パネル	壁パネル	壁パネル	壁パネル	間仕切パネル	天井パネル	壁・間仕切パネル	乾式二重床
基本補強図							

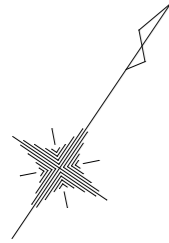
分類	アルミコーナー材	間仕切パネル隠い突	タオル掛け	押入補強金物	水切下地受金物	アルミ台付レール (S)	への字アングル
付属部品細図							

床・棚・壁・間仕切・天井パネルはF☆☆☆☆  
住宅部品表示ガイドラインに基づく「内装パネルのホルムアルデヒド発散区分表示」を示す。

- その他
1. 下地補強については、監督員と協議の上必要箇所へ施すこととする。
  2. 壁目地と天井目地は意匠性を考慮し出来る限り合わせる。
  3. 複合フローリング・合板はJASによる防虫処理合板認定品とする。

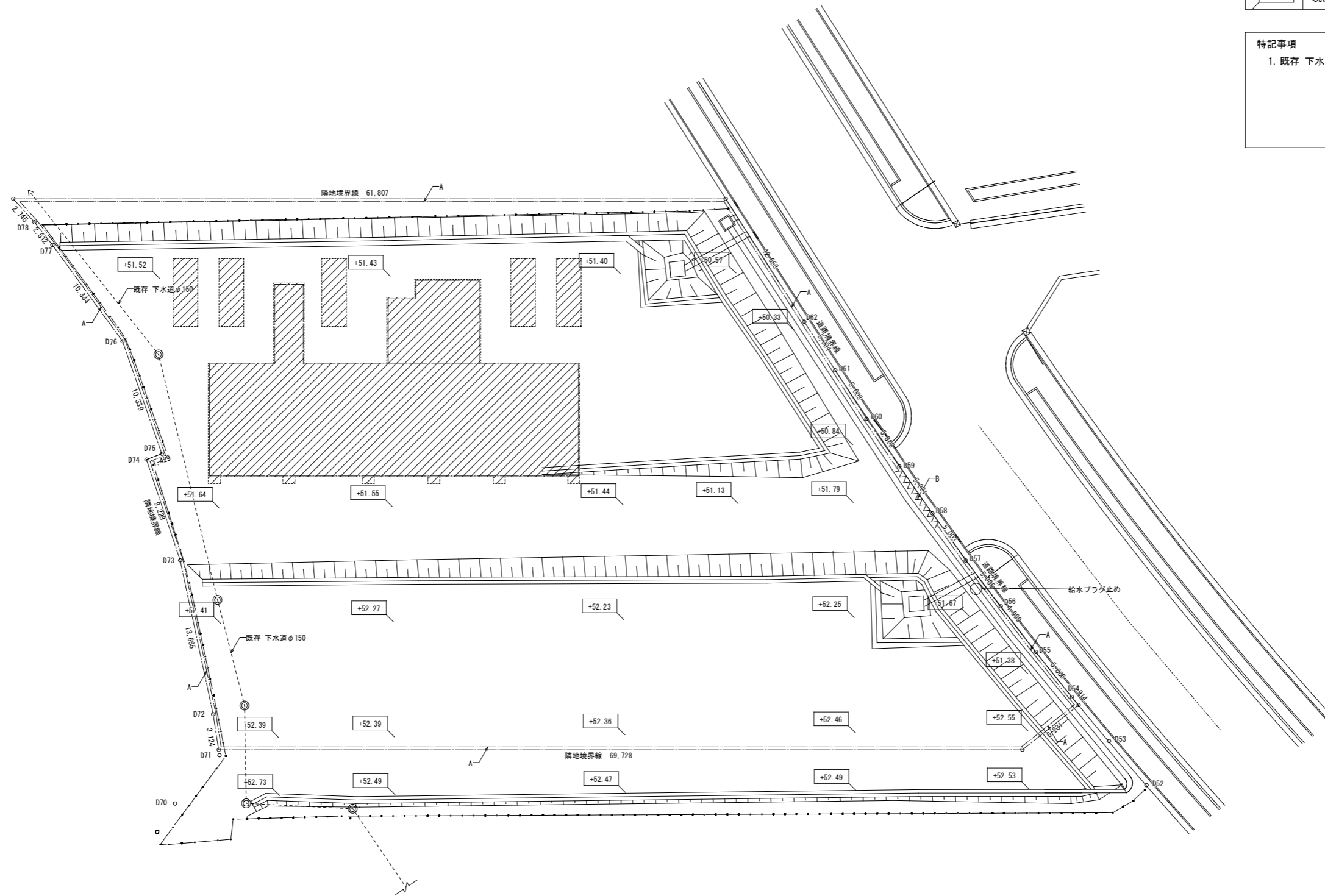
分類	塩ビコーナー材	C型カーテンレール	鴨居受金物	パネル止め金物	アルミ台付レール (W)	C型カーテンレール (W)
付属部品細図						

株式会社 本田建築設計事務所	平針住宅建築工事 (第11工区)	図面番号
一級建築士 登録第73615号 代表取締役 本田 伸太郎	基本パネル標準図	No. A52
縮尺 A1 : 1/40 A3 : 1/80		
検 図 製 図 設 計 令和元年 6月	愛知県建築局 公共建築部 公営住宅課	



凡例		
—A—	仮囲い	成形鋼板 (特記無き限りH=3.0mとする。)
∧∧∧∧	パネルゲート	W=6.3m、H=4.5m
▨	新築建物	
+51.66	現況レベル	W=6.3m、H=4.5m

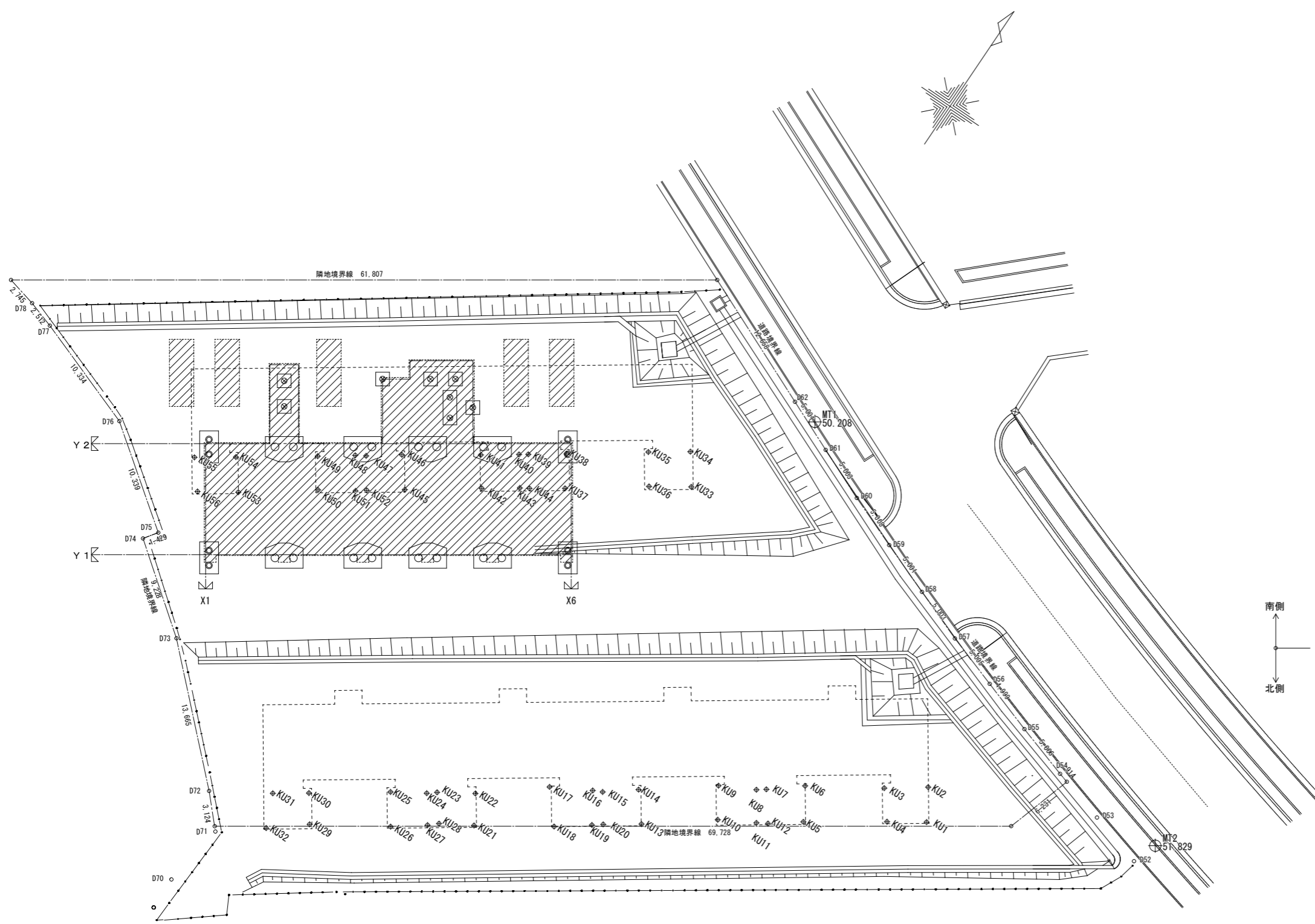
特記事項  
 1. 既存 下水管と新築建物が近接した箇所は適切に山留めを行うこと。



株式会社 本田建築設計事務所		平針住宅建築工事 (第11工区)		図面番号
一級建築士 登録 第73615号 代表取締役 本田 伸太郎		現況図、仮設計面図	縮尺 A1 : 1/200 A3 : 1/400	No. A53
概	製	設計 令和 元年 6月	愛知県建築局公共建築部公営住宅課	

座標リスト				
点番	点名	X座標	Y座標	標高
289	MT1	-99062.858	-14427.956	50.208
290	MT2	-99076.960	-14382.496	51.829

既設杭 座標リスト							
工事内容 (全長)	撤去 (一部)	残置 ※1	点番	点名	X座標	Y座標	標高
		○	232	KU2	-99083.827	-14401.841	51.556
		○	233	KU3	-99086.051	-14404.986	51.545
		○	234	KU4	-99088.353	-14403.142	51.536
		○	235	KU5	-99092.457	-14409.208	51.560
		○	236	KU6	-99089.759	-14410.845	51.785
		○	237	KU7	-99091.909	-14413.482	51.806
		○	238	KU8	-99092.427	-14414.184	51.799
		○	239	KU9	-99093.986	-14417.132	51.554
		○	240	KU10	-99096.496	-14415.515	51.466
		○	241	KU11	-99094.830	-14412.560	51.524
		○	242	KU12	-99094.311	-14411.686	51.559
		○	243	KU13	-99100.541	-14420.841	51.533
		○	244	KU14	-99098.184	-14422.741	51.537
		○	245	KU15	-99100.112	-14425.232	51.552
		○	246	KU16	-99100.489	-14426.027	51.539
		○	247	KU17	-99102.341	-14429.329	51.372
		○	248	KU18	-99104.994	-14427.062	51.555
		○	249	KU19	-99103.036	-14424.398	51.564
		○	250	KU20	-99102.435	-14423.602	51.560
		○	251	KU21	-99108.839	-14432.922	51.571
		○	252	KU22	-99106.451	-14434.393	51.551
		○	253	KU23	-99108.240	-14437.230	51.555
		○	254	KU24	-99108.813	-14437.937	51.595
		○	255	KU25	-99110.494	-14440.624	51.543
		○	256	KU26	-99113.009	-14438.923	51.536
		○	257	KU27	-99111.085	-14436.320	51.554
		○	258	KU28	-99110.417	-14435.560	51.321
		○	259	KU29	-99116.800	-14444.912	51.544
		○	260	KU30	-99114.564	-14446.490	51.532
		○	261	KU31	-99116.351	-14449.102	51.543
		○	262	KU32	-99119.205	-14447.886	51.533
	○		263	KU33	-99073.633	-14433.741	50.602
	○		264	KU34	-99071.119	-14435.526	50.606
	○		265	KU35	-99073.197	-14438.558	50.592
	○		266	KU36	-99075.659	-14436.830	50.602
	○		267	KU37	-99079.913	-14442.827	50.527
	○		268	KU38	-99077.336	-14444.408	50.594
	○		269	KU39	-99079.240	-14447.159	50.598
	○		270	KU40	-99079.700	-14447.830	50.602
	○		271	KU41	-99081.600	-14450.573	50.589
	○		272	KU42	-99083.989	-14448.876	50.599
	○		273	KU43	-99082.094	-14446.128	50.613
	○		274	KU44	-99081.655	-14445.417	50.594
	○		275	KU45	-99087.850	-14454.389	50.593
	○		276	KU46	-99085.463	-14456.306	50.603
	○		277	KU47	-99087.292	-14458.850	50.598
	○		278	KU48	-99087.785	-14459.670	50.600
	○		279	KU49	-99089.680	-14462.348	50.605
	○		280	KU50	-99092.113	-14460.675	50.601
	○		281	KU51	-99090.353	-14457.903	50.591
	○		282	KU52	-99089.759	-14457.120	50.600
	○		283	KU53	-99096.183	-14466.351	50.606
	○		284	KU54	-99093.750	-14468.244	50.595
	○		285	KU55	-99095.800	-14471.237	50.592
	○		286	KU56	-99098.130	-14469.344	50.594



凡例		
⊕ KU**	既設建物 杭	コンクリート杭 φ350 L=22000 工事内容は「既設杭 座標リスト」による
---	既設建物 外形	解体済み（基礎共）
///	新築建物	
⊗	新築建物 基礎・杭	仕様は別紙（構造図）による

- 特記事項
- 杭の撤去前に必ず全ての杭芯を測定後、撤去を行うこと。また残置杭については杭芯位置座標図を作成し、監督員に提出すること。
  - 杭撤去後の穴には一軸圧縮強度0.5N/mm<sup>2</sup> (W/C=200%)程度のセメントミルクで埋め戻すこと。
  - ※1: GL-2.5m (+49.16) まで撤去
  - GL=+51.66 その他敷地内レベルは別紙現況図による

株式会社 本田建築設計事務所		平針住宅建築工事（第11工区）		図面番号
一級建築士 登録 第73615号 代表取締役 本田 伸太郎		杭撤去図	縮尺 A1: 1/200 A3: 1/400	No. A54
核 図	製 図	設 計 令和 元年 6月	愛知県建築局公共建築部公営住宅課	

1. 鉄筋の表示記号

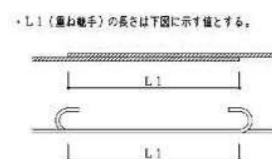
Table with 4 columns: 鉄筋種 (Reinforcement type), 表示記号 (Symbol), 規格 (Specification), 表示記号 (Symbol). Rows include D10, D13, D16, D19, D22 and their corresponding symbols and specifications.

(注) 本図集において、鉄筋の表示方式は、上記の形式とする

2. 鉄筋の表示方式

Table with 2 columns: 表示方式 (Representation method), 表示例および内容 (Representation example and content). Rows show examples for n-D, Dm, Dm, Dm, and Dm with diagrams and descriptions.

(注) 本図集において、鉄筋の表示方式は、上記の形式とする



公共住宅標準詳細設計図集

3. 鉄筋の定着および継手長さ

Table with 4 columns: コンクリート設計基準強度 Fc (Concrete design strength), 鉄筋の種別 (Reinforcement type), フックの有無 (Hook presence), and L1, L2, L3 (Development lengths). Rows are categorized by concrete strength (18N, 21N, 27N) and reinforcement type (SD295A, SD345, SD390).

継手の定着
○重ね継手と定着の長さの3乗を基準とする。ただし異なる鉄筋の重ね継手の長さは、短い方の公称直径による。
△L1は鉄筋並びに下地△及び△以外の定着長さを示す。
△L2は鉄筋並びに下地△以外の定着長さを示す。
△L3は小径及び外径の下の定着長さを示す。但し、温度調整板、これを受ける小径などは除く。

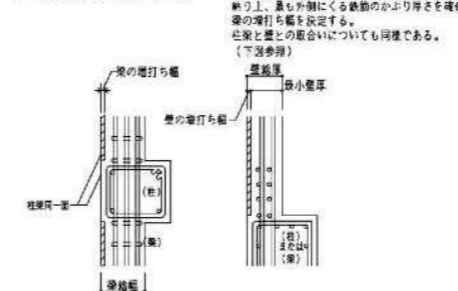
共通事項 (その1)
R-1-1

1. 鉄筋のかぶりの厚さの最小値 (mm)

Table with 2 columns: 構造部分の種類 (Structural part type) and すべてコンクリート (All concrete). Rows include 土に接しない部分 (Not in contact with soil) and 土に接する部分 (In contact with soil), with sub-categories for floor, wall, and column.

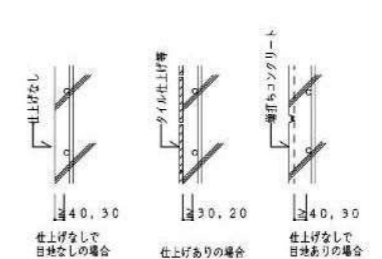
(注) 1. 日地がある場合の最小値は、日地からとする。
2. 上表は、普通重量コンクリートの場合も含む。
3. 仕上げありとは、タイル張り・タイル張り等の仕上げのあるものとし、仕上げ材料等による鉄筋の断面有効でない仕上げのものを除く。
4. 床板、梁、蓋等および壁等に直接土に接する部分の最小値は、コンクリートの厚さを含み、
5. 柱等の場合の最小値は、気取からとする。

2. 梁壁の埋込り幅



公共住宅標準詳細設計図集

仕
棟
附
記
事
項
名称
共通事項 (その3)
縮尺
R-1-3



6. 床板部分の最小値は、普通コンクリートに適用し、軽量コンクリートの場合は特記による。
7. 柱・梁等の鉄筋加工に用いるかぶり厚さ(設計かぶり厚さ)は、最小かぶり厚さに10mmを加えた数値を標準とする。
8. 柱及び梁の柱筋に、異形鉄筋(D29以上)を使用する場合は、主筋のかぶり厚さを主筋径の1.5倍以上確保できるように、最小かぶり厚さを定めること。
9. 腐食を受けるおそれのある部分等、耐久上不利な箇所では、本表は適用しない。

1. 鉄筋の折曲げ規準

Table with 4 columns: 曲げ角度 (Bending angle), 折曲げ径 (Bending diameter), すべてコンクリート (All concrete), and 使用箇所 (Usage). Rows show bending standards for 160, 135, 90, and 45 degrees.

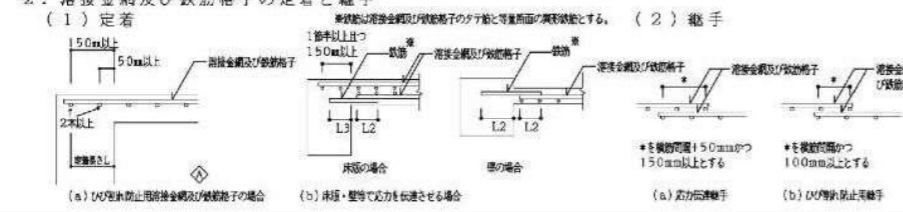
(注) Dは、曲げ内の半径

Table with 4 columns: 曲げ角度 (Bending angle), 折曲げ径 (Bending diameter), すべてコンクリート (All concrete), and 使用箇所 (Usage). Rows show bending standards for 90 degrees and below.

○フックを必要とする末端部を次に示す。
1) 異形鉄筋では彎曲、および他
2) 埋込りに用いる鉄筋(壁の一部となる場合を含む)
3) 一般用柱、梁(基礎部を除く)の出露部分の重ね継手
△ひび割れ防止に用いる溶接金網及び鉄筋格子の定着長さは、支持部材の内側表面から溶接金網及び鉄筋格子の最外縁の長さとする。その柱は断面周長に50mmを加えた長さとし、かつ150mm以上とする。

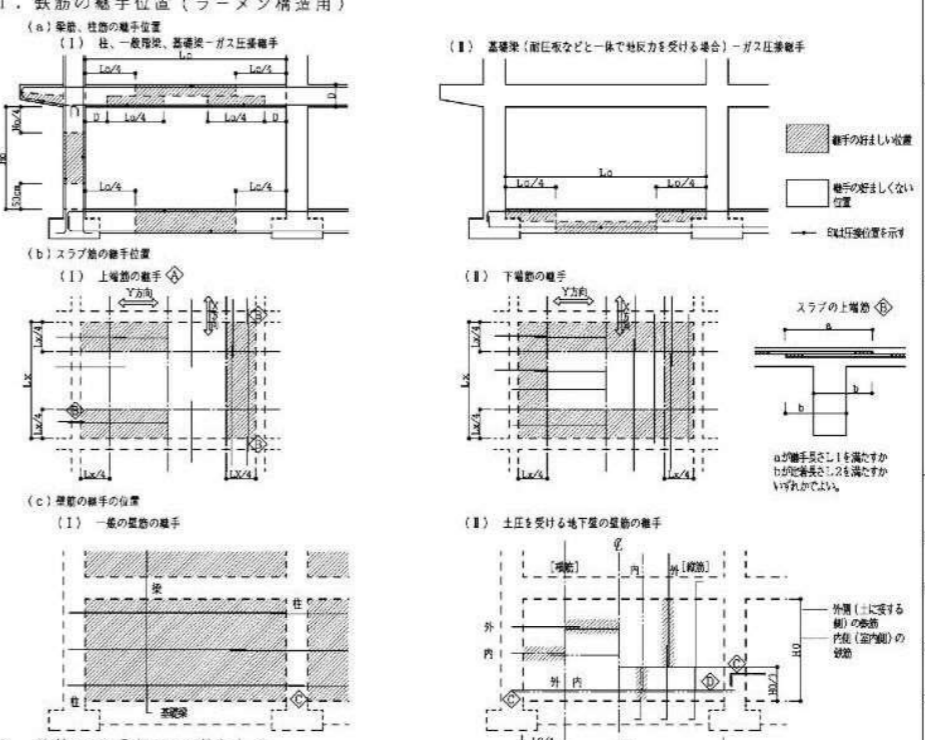
共通事項 (その2)
R-1-2

2. 溶接金網及び鉄筋格子の定着と継手



公共住宅標準詳細設計図集

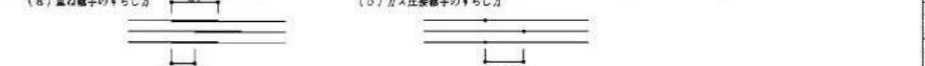
1. 鉄筋の継手位置 (ラーメン構造用)



○鉄筋の継手は原則として筋力の小さいところ、かつ隣接コンクリートに圧縮力が生じている部分に設ける。また継手は一方側に集中することなく相互にずらして設けることとする。
△、図示以外に鉄筋の継手を受ける場合は監督員の承認を受ける。
△又はガス圧継手の場合を示している。なお重ね継手の場合も原則的には本表に準じることとする。
△継手内にはスラブ筋の継手を設けないこととする。また、継手を受ける場合は、在り厚に限りnが継手長さL1を満たすか、bが定着長さL2を満たす場合は設けてもよい。
△面内として柱筋に鉄筋の継手は設けないこと。ただし、柱筋の場合は1スパン毎に柱に定着する事は差支えない。
△外側筋をLd/3以内で継手場合は重ね長さをL1+5dとする。

○壁の縦筋及び筋節の内外関係は、構造を視察の外側に配する。但し、土圧を受ける地下壁は、縦筋を筋節の外側に配する。

2. 鉄筋の継手相互のずらし方

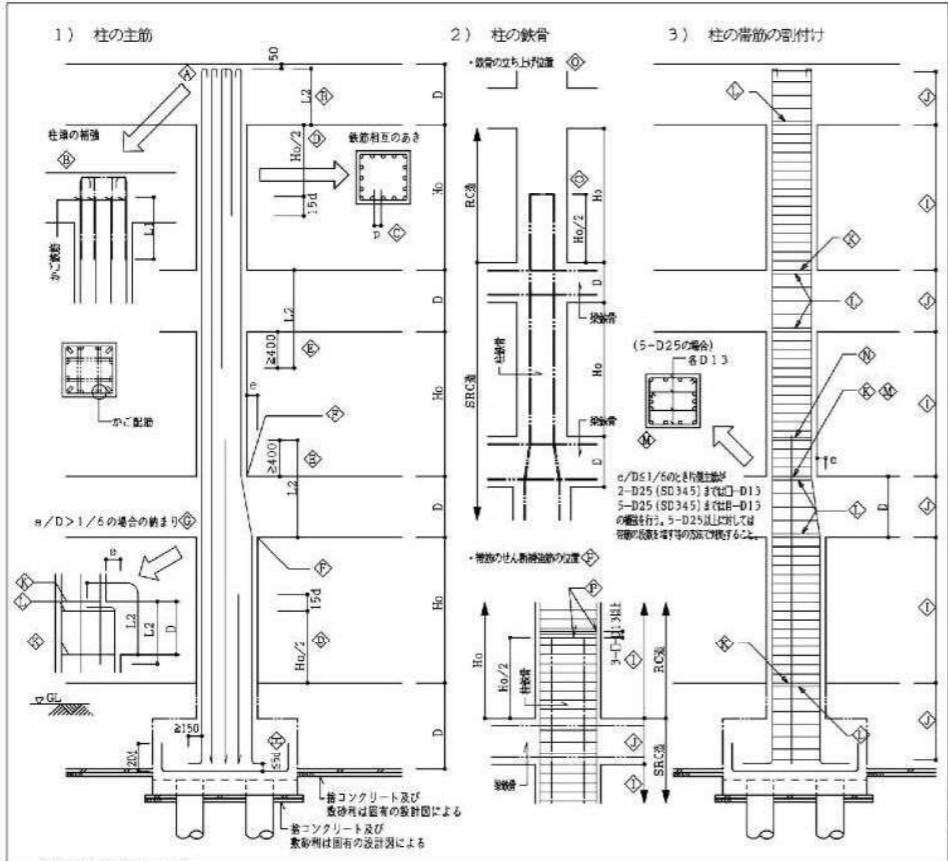


公共住宅標準詳細設計図集

Table with 4 columns: 谷建築事務所 (Yanagi Architectural Office), 株式会社 本田建築設計事務所 (Honda Architectural Design Office), 平針住宅建築工事 (第11工区) (Heinashi Residential Building Work (11th District)), and 図面番号 (Drawing No.).

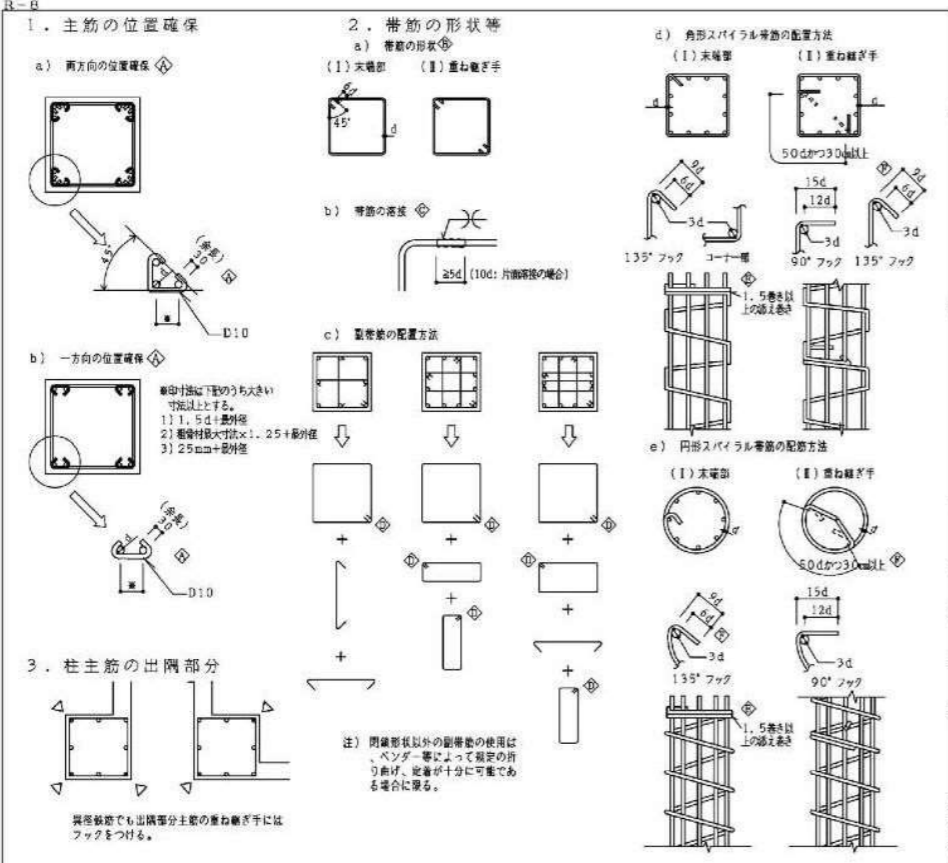
愛知県建築局公共建築部公営住宅課





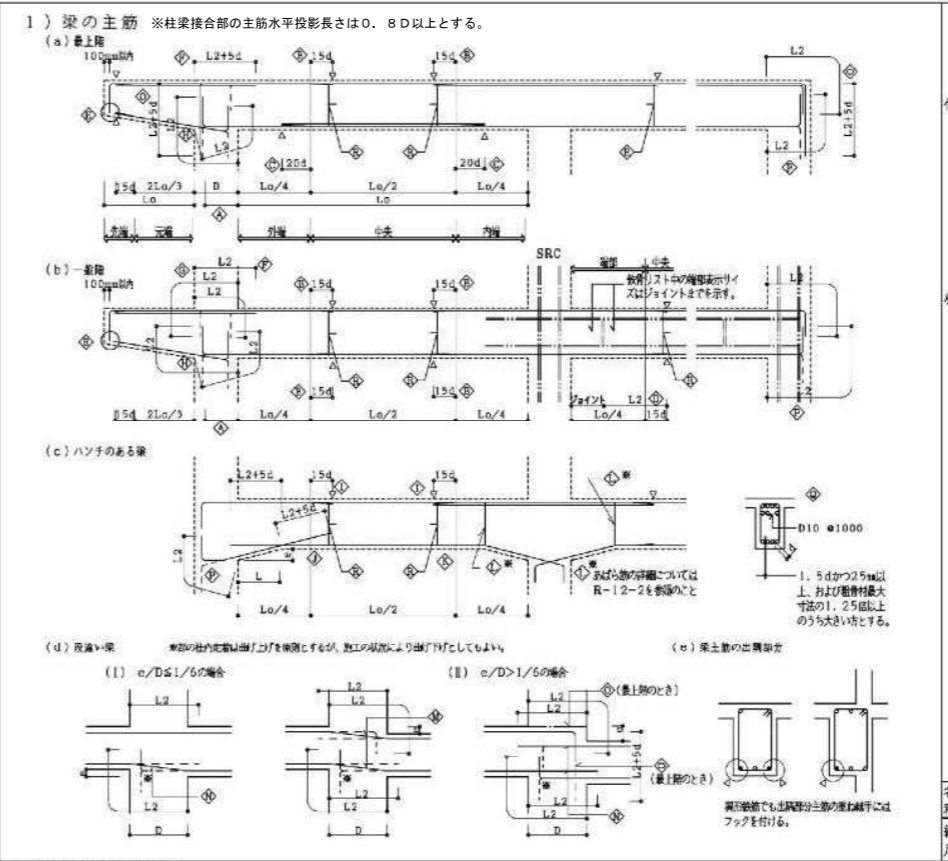
仕 業  
準 則  
R-11-1-1  
1. 柱の主筋は全てフックを設ける。  
2. 柱の主筋の定着長は設計図によるが、L2以上とする。定着長の不足する場合は、距離を緩和して規定より大きい寸法による補強を行う。  
3. 主筋の定着長さ1.5dかつ25mm以上、及び接合部最大径の1.25倍以上の長さとする。  
4. 柱の鉄骨が柱より多い場合は、配筋コンクリート部分の設計が2+1.5d以上となる。柱の鉄骨が柱より多い場合は、柱上端より10d程度の距離で行う。  
5. その筋止まりの位置は、その筋の長さより下(または上)にL2以上かつ定着方向の長さより400mm以上とする。  
6. 柱主筋のしほり位置はコンクリート面とする。  
7. n/D $\leq$ 1/6の場合、カンニングによる補強が不可能な場合は、本図のような定着となる。  
8. フーチング主筋と柱との間隔は5d以下とする。  
9. 帯筋は同一ピッチとする(100mm以下)。  
10. パネルゾーン部分の帯筋は鉄骨に柱で定める補強長さの2倍以上、25mm以上、50mm以下及び補強する鉄骨間隔の1.5倍以下で配置する。  
11. 鋼コンクリート上部構造に帯筋を配置する。  
12. 柱に接する床下地盤より上端部まで、鋼骨を水平に配置し、帯筋を配置する。帯筋D13とする。  
13. 柱断面の定着位置を第一層を設けるように補強する。補強不可の場合は、L2を示すようにする。  
14. 柱主筋の鉄骨と鉄骨間は鋼骨と同等の補強を要する。  
15. SRC造、RC造の切替部分の鉄骨は、RC造の柱にn/D $\leq$ 1/6とし、1.5d以上とする。  
16. SRC造、RC造の切替部分の鉄骨の上には、鉄骨コンクリート部分の存在応力が十分に保たれるように主筋及びせん断補強筋を配置する。

名称  
規格  
記号  
R-11-1-1  
公共住宅標準詳細設計図集



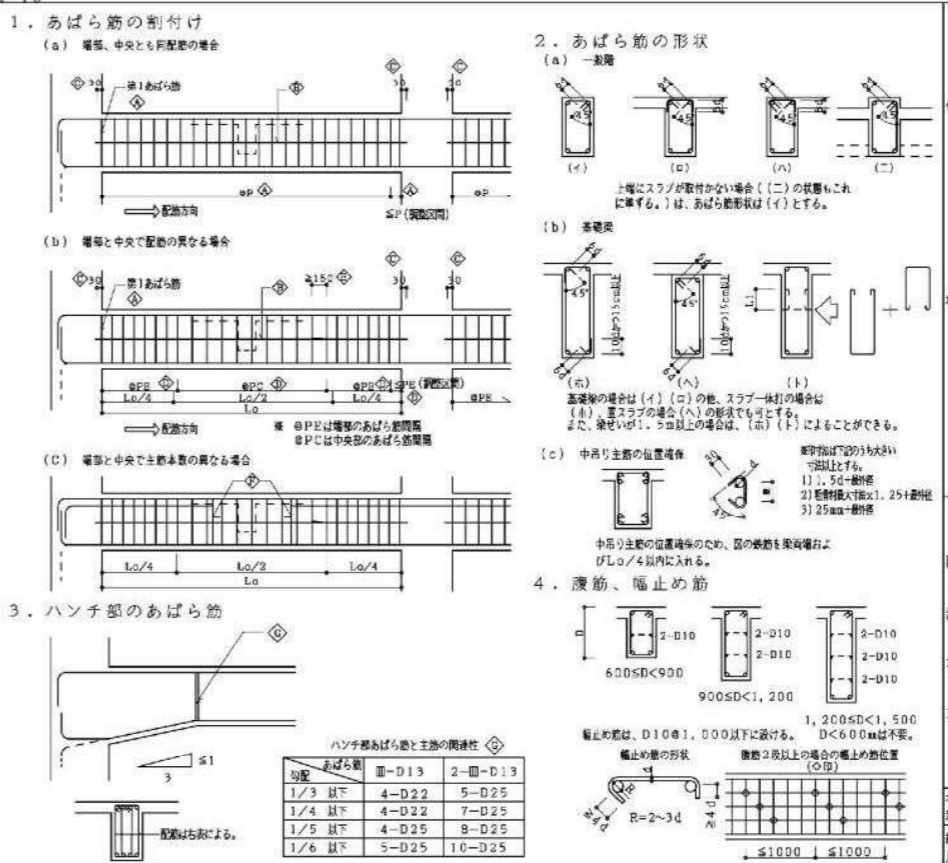
仕 業  
準 則  
R-11-1-2  
1. 帯筋は設計図によるが、L2以上とする。定着長の不足する場合は、距離を緩和して規定より大きい寸法による補強を行う。  
2. 主筋の定着長さは設計図によるが、L2以上とする。定着長の不足する場合は、距離を緩和して規定より大きい寸法による補強を行う。  
3. 柱の鉄骨が柱より多い場合は、配筋コンクリート部分の設計が2+1.5d以上となる。柱の鉄骨が柱より多い場合は、柱上端より10d程度の距離で行う。  
4. その筋止まりの位置は、その筋の長さより下(または上)にL2以上かつ定着方向の長さより400mm以上とする。  
5. 柱主筋のしほり位置はコンクリート面とする。  
6. n/D $\leq$ 1/6の場合、カンニングによる補強が不可能な場合は、本図のような定着となる。  
7. フーチング主筋と柱との間隔は5d以下とする。  
8. 帯筋は同一ピッチとする(100mm以下)。  
9. パネルゾーン部分の帯筋は鉄骨に柱で定める補強長さの2倍以上、25mm以上、50mm以下及び補強する鉄骨間隔の1.5倍以下で配置する。  
10. 鋼コンクリート上部構造に帯筋を配置する。  
11. 柱に接する床下地盤より上端部まで、鋼骨を水平に配置し、帯筋を配置する。帯筋D13とする。  
12. 柱断面の定着位置を第一層を設けるように補強する。補強不可の場合は、L2を示すようにする。  
13. 柱主筋の鉄骨と鉄骨間は鋼骨と同等の補強を要する。  
14. SRC造、RC造の切替部分の鉄骨は、RC造の柱にn/D $\leq$ 1/6とし、1.5d以上とする。  
15. SRC造、RC造の切替部分の鉄骨の上には、鉄骨コンクリート部分の存在応力が十分に保たれるように主筋及びせん断補強筋を配置する。

名称  
規格  
記号  
R-11-1-2  
公共住宅標準詳細設計図集



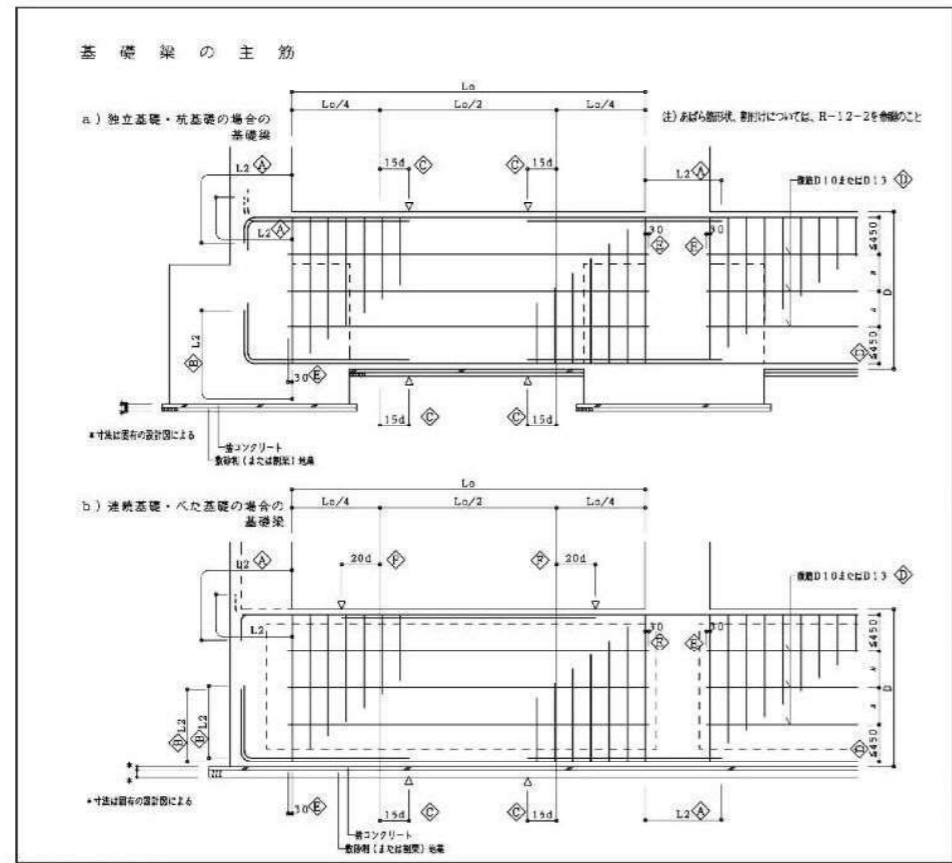
仕 業  
準 則  
R-12-1  
1. 梁の主筋は設計図によるが、L2以上とする。定着長の不足する場合は、距離を緩和して規定より大きい寸法による補強を行う。  
2. 主筋の定着長さは設計図によるが、L2以上とする。定着長の不足する場合は、距離を緩和して規定より大きい寸法による補強を行う。  
3. 柱の鉄骨が柱より多い場合は、配筋コンクリート部分の設計が2+1.5d以上となる。柱の鉄骨が柱より多い場合は、柱上端より10d程度の距離で行う。  
4. その筋止まりの位置は、その筋の長さより下(または上)にL2以上かつ定着方向の長さより400mm以上とする。  
5. 柱主筋のしほり位置はコンクリート面とする。  
6. n/D $\leq$ 1/6の場合、カンニングによる補強が不可能な場合は、本図のような定着となる。  
7. フーチング主筋と柱との間隔は5d以下とする。  
8. 帯筋は同一ピッチとする(100mm以下)。  
9. パネルゾーン部分の帯筋は鉄骨に柱で定める補強長さの2倍以上、25mm以上、50mm以下及び補強する鉄骨間隔の1.5倍以下で配置する。  
10. 鋼コンクリート上部構造に帯筋を配置する。  
11. 柱に接する床下地盤より上端部まで、鋼骨を水平に配置し、帯筋を配置する。帯筋D13とする。  
12. 柱断面の定着位置を第一層を設けるように補強する。補強不可の場合は、L2を示すようにする。  
13. 柱主筋の鉄骨と鉄骨間は鋼骨と同等の補強を要する。  
14. SRC造、RC造の切替部分の鉄骨は、RC造の柱にn/D $\leq$ 1/6とし、1.5d以上とする。  
15. SRC造、RC造の切替部分の鉄骨の上には、鉄骨コンクリート部分の存在応力が十分に保たれるように主筋及びせん断補強筋を配置する。

名称  
規格  
記号  
R-12-1  
公共住宅標準詳細設計図集



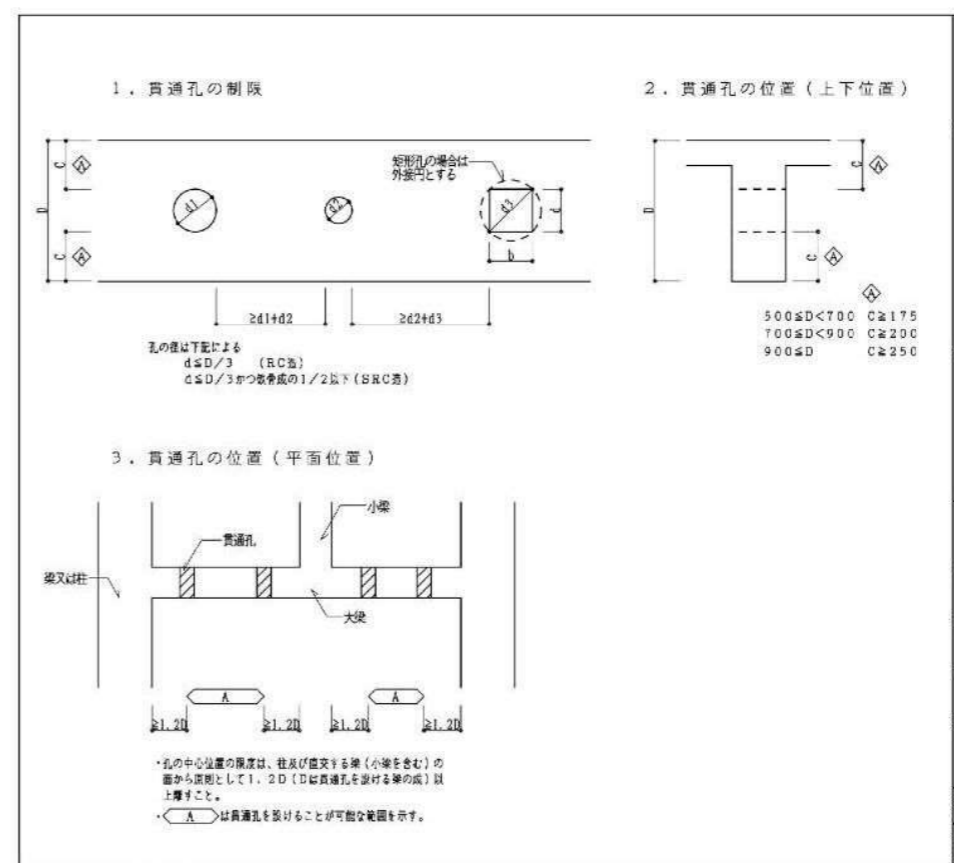
仕 業  
準 則  
R-12-2  
1. あばら筋は設計図によるが、L2以上とする。定着長の不足する場合は、距離を緩和して規定より大きい寸法による補強を行う。  
2. 主筋の定着長さは設計図によるが、L2以上とする。定着長の不足する場合は、距離を緩和して規定より大きい寸法による補強を行う。  
3. 柱の鉄骨が柱より多い場合は、配筋コンクリート部分の設計が2+1.5d以上となる。柱の鉄骨が柱より多い場合は、柱上端より10d程度の距離で行う。  
4. その筋止まりの位置は、その筋の長さより下(または上)にL2以上かつ定着方向の長さより400mm以上とする。  
5. 柱主筋のしほり位置はコンクリート面とする。  
6. n/D $\leq$ 1/6の場合、カンニングによる補強が不可能な場合は、本図のような定着となる。  
7. フーチング主筋と柱との間隔は5d以下とする。  
8. 帯筋は同一ピッチとする(100mm以下)。  
9. パネルゾーン部分の帯筋は鉄骨に柱で定める補強長さの2倍以上、25mm以上、50mm以下及び補強する鉄骨間隔の1.5倍以下で配置する。  
10. 鋼コンクリート上部構造に帯筋を配置する。  
11. 柱に接する床下地盤より上端部まで、鋼骨を水平に配置し、帯筋を配置する。帯筋D13とする。  
12. 柱断面の定着位置を第一層を設けるように補強する。補強不可の場合は、L2を示すようにする。  
13. 柱主筋の鉄骨と鉄骨間は鋼骨と同等の補強を要する。  
14. SRC造、RC造の切替部分の鉄骨は、RC造の柱にn/D $\leq$ 1/6とし、1.5d以上とする。  
15. SRC造、RC造の切替部分の鉄骨の上には、鉄骨コンクリート部分の存在応力が十分に保たれるように主筋及びせん断補強筋を配置する。

名称  
規格  
記号  
R-12-2  
公共住宅標準詳細設計図集



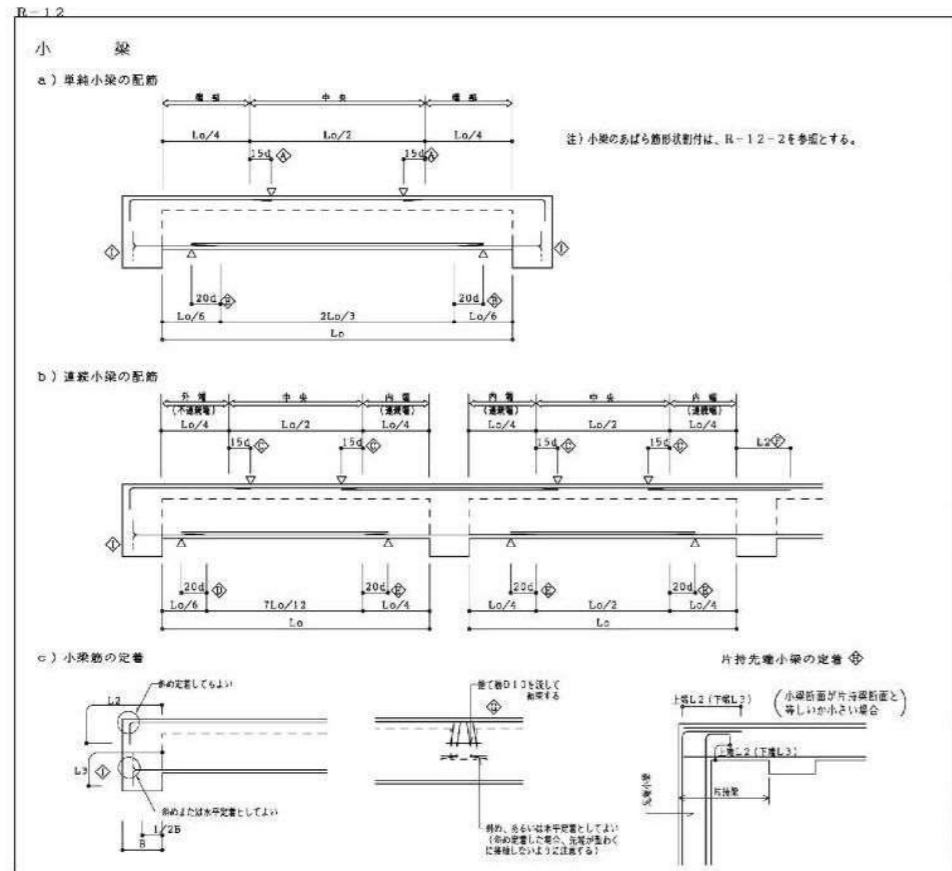
公共住宅標準詳細設計図集

仕	<ul style="list-style-type: none"> <li>上層筋は定着長さより2とし曲げ下げ加算を要する。降下する層内は定着できる場合は、柱内に定着しなくてもよい。</li> <li>外端の下層筋は、連続基礎・ベタ基礎の場合は曲げをとった位置から、独立基礎・杭基礎の場合は柱面からL/2の定着をとるものとする。</li> <li>カットオフ筋の定着長さはL/4 + 15d以上かつ計算により定まる定着長さ以上とする。L/4 ≤ 2.50Dmmの場合は差し筋とする。</li> <li>筋間は基礎幅が1.500m以上の場合はD13で、それ未満の場合はD10を用い、筋付け間隔は450mm以内とする。</li> <li>壁筋の柱内へのみ込みは30mm程度（あばら筋との継ぎ手可能な程度）とする。両側の筋間を連続させる必要がある。</li> <li>地震力を受ける中央上層筋の定着長さは、L/4の位置より2Dとする。</li> </ul>
附	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎梁においてはL/4の位置で状態量のチェックを行ない、必要に応じて中央部の鉄筋を削り縮すか、寸法を必要長さまで延長して設計図に明示すること。ただし、長期で配筋が決まる場合はR-1-2-4を参照のこと。</li> </ul>
記	ラーメン構造・基礎梁
事	R-1-2-3
項	
名	
類	
別	



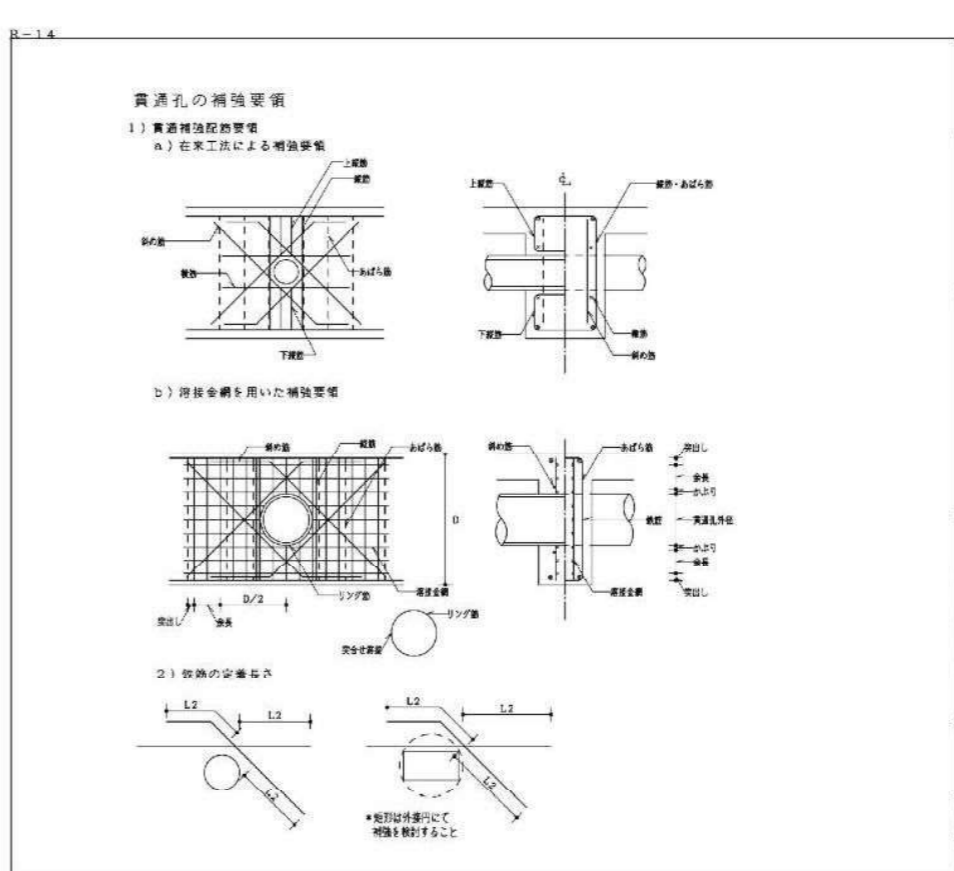
公共住宅標準詳細設計図集

仕	<ul style="list-style-type: none"> <li>柱には、貫通孔を設けてはならない。</li> <li>⊙の寸法は、規格による値を最小値とし、個別設計での検討より決定する。</li> </ul>
附	
記	ラーメン構造貫通孔 (その1)
事	R-1-3-1
項	
名	
類	
別	



公共住宅標準詳細設計図集

仕	<ul style="list-style-type: none"> <li>端部トップ筋の定着は、L/4の位置より15dとする。</li> <li>中央引張鉄筋の定着は、下層の引張筋力範囲が長いので、L/6の位置より20dとする。</li> <li>端部トップ筋の定着は外端、内端にかかわらず、L/4の位置より15dとする。</li> <li>外端を有する小梁の中央下層筋の外端方向への定着は、L/6の位置より20dとする。</li> <li>小梁中央下層筋の連続端方向への定着は、L/4の位置より20dとする。</li> <li>連続する小梁端部筋が左右で異なる場合は、隣接小梁内にL/2の定着をとるものとする。</li> <li>定着筋に光電において相互に乗りやみするので、固定のあきを確保するため、当て筋を差し加える。</li> <li>片持ち小梁の定着は、片側梁内水アングラーとし、定着は図示のように、各層は異なる。</li> <li>下層筋の末端は、曲げ上げ・曲げ下げのいずれでもよい。</li> </ul>
附	
記	ラーメン構造・小梁
事	R-1-2-4
項	
名	
類	
別	



公共住宅標準詳細設計図集

仕	<ul style="list-style-type: none"> <li>補強方法は、スリブ補強体のせん断耐力が梁孔梁と同程度の耐力を有するものとする。</li> <li>縦筋・斜筋を連続金網に変更することも可とする。その際は縦筋、斜筋に等価な断面積をもつ補強金網を要する。</li> <li>縦筋および上下層筋は、あばら筋の筋に配筋する。</li> <li>補強筋は、主筋の内側とする。やじを得ない場合は、縦筋の両端を受け外側とすることができる。</li> <li>取組品による補強を行う場合、取組品補強材には、実数により性能が確認され、(財)日本建築センターの認定・評価を受けたものを用いる。</li> </ul>
附	
記	ラーメン構造梁の貫通孔 (その2)
事	R-1-3-2
項	
名	
類	
別	

谷建築事務所	株式会社 本田建築設計事務所	平針住宅建築工事 (第11工区)	図面番号
一級建築士 登録第173794号 構造設計一級建築士登録番号 第5433号 谷 洋	一級建築士 登録第73615号 代表取締役 本田 伸太郎	配筋基準図(3)	前尺 A1: 二 A3: 一 No. S03
構造関係規定に適合することを 確認した。	検 製 設 計 図 図 計 計 和 元 年 6 月	愛知県建築局公共建築部公営住宅課	

R-15

### 非耐力壁

#### 1) 非耐力壁 配筋リスト

呼称	非耐力壁					備考
	W100	W120	W150	W180	W200	
断面図 (立面図)						幅止め筋設置
縦筋	D10 〇 250	D10 〇 200	D10 〇 150	D10 〇 200	D10 〇 200	
横筋	D10 〇 250	D10 〇 200	D10 〇 150	D10 〇 200	D10 〇 200	
開口部補強筋	1 - D13	2 - D13	2 - D13	2 - D13	2 - D13	
開口部外補強筋	1 - D13	2 - D13	2 - D13	2 - D13	2 - D13	

#### 2) コンクリートブロック壁 配筋リスト

呼称	コンクリート壁			備考
	CB100	CB150	CB200	
断面図 (立面図)				*横筋は配筋率を示す。
縦筋	D10 〇 400	D10 〇 400	D10 〇 400	
横筋	D10 〇 600	D10 〇 600	D10 〇 600	

#### 3) 非耐力壁の割付け

仕 業 種 別 附 記 事 項

名 称 ラーメン構造非耐力壁 (その1)

縮 尺 R-14-1

公共住宅標準詳細設計図集

R-17

### 6) 完全スリット及び部分スリット要領

#### (a) スリット構造要領

仕 業 種 別 附 記 事 項

名 称 ラーメン構造非耐力壁 (その3)

縮 尺 R-14-3

公共住宅標準詳細設計図集

R-16

### 4) 非耐力壁開口補強, スリット詳細

注) 開口部補強筋は全てD13を示し、---表示の補強筋はW120以上の場合に採用する。

#### 5) ひび割れ防止用補強筋

縦筋	横筋	W100, W120, W150, W180, W200			
		a	b	a	b
6φ 100x100	400	200	-	-	-
8φ 100x100	200	200	400	200	-

横筋	縦筋	W100, W120, W150, W180, W200			
		a	b	a	b
D6 100x100	200	200	-	-	-
D10 100x100	-	-	200	200	-

仕 業 種 別 附 記 事 項

名 称 ラーメン構造非耐力壁 (その2)

縮 尺 R-14-2

公共住宅標準詳細設計図集

R-18

### 耐力壁・地下壁

#### 1) 耐力壁の構造, 定端

#### 2) 地下壁の構造, 定端

仕 業 種 別 附 記 事 項

名 称 ラーメン構造耐力壁・地下壁

縮 尺 R-15-

公共住宅標準詳細設計図集

谷建築事務所	株式会社 本田建築設計事務所	平針住宅建築工事 (第11工区)	図面番号
一級建築士 登録第173794号 構造設計一級建築士登録番号 第5435号 谷 洋	一級建築士 登録第73615号 代表取締役 本田 伸太郎	配筋基準図(4)	縮尺 A1: - A3: - No. S04
構造関係規定に適合することを 確認した。	検 図 製 図 計 画 令和元年 6月	愛知県建築局公共建築部公営住宅課	

### 1. 梁増打ちコンクリート要領

B, D (mm)	e (mm)	50 < e ≤ 200
B, D ≤ 400	2 - D15	
300 < B, D ≤ 500	3 - D16	
500 < B, D ≤ 700	4 - D16	
700 < B, D ≤ 900	5 - D16	
900 < B, D ≤ 1100	6 - D16	
1100 < B, D ≤ 1300	7 - D16	

※ e ≤ 50 mm の場合は補強筋不要とする。

### 2. はり間方向屋根梁水勾配増打ち部の補強要領

はり間方向屋根の水勾配増打ち部の補強は以下に依る。

名称: ラーメン構造 梁増打ち要領  
縮尺: R-16-1

### 設備機器埋込み要領

仕 任 務 記 事 項 名 称 縮 尺

名称: 設備機器埋込み要領  
縮尺: R-16-3

### 1) 柱増打ちコンクリート要領

D, D (mm)	e (mm)	50 < e ≤ 125
300 < B, D ≤ 500	3 - D16	
500 < B, D ≤ 700	4 - D16	
700 < B, D ≤ 900	5 - D16	
900 < B, D ≤ 1,100	6 - D16	
1,100 < B, D ≤ 1,300	7 - D16	

※ e ≤ 50 mm の場合は補強筋不要とする。

名称: ラーメン構造 柱増打ち要領  
縮尺: R-16-2

### 1. 直接基礎の場合

(a) 台形断面基礎 (b) 長方形断面基礎

仕 任 務 記 事 項 名 称 縮 尺

名称: フォーム構造基礎 (その1)  
縮尺: R-17-1

谷建築事務所	株式会社 本田建築設計事務所	平針住宅建築工事 (第11工区)	図面番号
一級建築士 登録第173794号 構造設計一級建築士登録番号 第5435号 谷 淳	一級建築士 登録第73615号 代表取締役 本田 伸太郎	配筋基準図(5)	前尺 A1: 二 A3: 二 No. S05
構造関係規定に適合することを 確認した。		検 図 設 計 令和元年 6月	愛知県建築局公共建築部公営住宅課